

一宮市・尾西市・木曽川町の合併に関する
住 民 意 識 調 査

報 告 書

平 成 1 6 年 3 月

一宮市・尾西市・木曽川町合併協議会

目 次

調査の概要	1
I. 回答者のプロフィール	3
(1) 性別	3
(2) 年齢	3
(3) 地域別	4
(4) 現在の住まいでの居住年数	4
(5) 職業	5
II. 一宮市、尾西市、木曽川町の合併について	6
(1) 合併協議についての認知度	6
(2) 一宮市、尾西市、木曽川町の合併協議について知った媒体	9
(3) 一宮市、尾西市、木曽川町の合併についての関心	12
III. 合併についての期待と不安	15
(1) 合併についての期待	15
(2) 合併についての不安	21
IV. 合併後のまちづくりについて	25
(1) 合併後のまちづくりに生かすべき2市1町の特色	25
(2) 新市のまちづくりに際して力点をおくべき施策分野	29
(3) プロジェクト・施策で重要なもの	33
V. 自由意見	39
〈合併について〉	39
〈各分野のまちづくりについて〉	42
〈その他〉	50

調査の概要

1 目的

一宮市、尾西市及び木曾川町の合併に対する住民の関心や新市のまちづくりについての意向等を把握し、今後の合併協議に反映していくとともに、市町村合併に対しての住民の関心を高めることを目的に実施しました。

2 調査対象及びサンプル数

2市1町に居住する18歳以上の住民10,000人とし、各市町のサンプル数を下表のとおりとしました。

図表 0-1 サンプル数

市 町 名	サンプル数	有効配布数	(参考) H15. 10. 1 人口
2市1町	10,000	9,929	373,809
一宮市	7,563	7,497 (75.6%)	282,710 (75.6%)
尾西市	1,576	1,572 (15.8%)	58,906 (15.8%)
木曾川町	861	860 (8.6%)	32,193 (8.6%)

3 調査期間

平成16年2月3日から平成16年2月26日まで

4 実施手法

調査は、無作為抽出法によるものとし、抽出した対象者に郵送にて調査票を配布し、返信用封筒を同封し回収しました。

なお、調査票と合わせて、新市建設計画の素案及びこれまでに決定された合併協議の調整方針案をまとめた住民説明会用資料「一宮市・尾西市・木曾川町合併協議の状況報告書」も同封して、合併に関わる取組みについても情報提供しました。

5 回収結果

回収結果は、次のとおりであり、有効回収率は約62%に達しました。

○有効配布数 9,929 (主として転居していた対象者を除く)

○回収数 6,223 (回収率 62.7%。有効配布数に対する割合)

○有効回答数 6,143

(有効回収率61.9%。回収した票のうちで無回答が大半のもの等を除く)

6 報告書の見方について

- 文中においては、四捨五入により一の位で示しています。図表中においては、小数点第1位まで示しています。また、四捨五入を行っている数値のため、単数回答の設問については、%の表示の合計が必ずしも100%となりません。
- 文中では選択肢を「 」で記述しています。選択肢をまとめたものは『 』で記述しています。
- 図表中においては、有効回答の実数と、その割合(小数点第1位)を示しています。
- 割合を算出する母数は、基本的には有効回答数の6,143としており、これらの回答者のうちで設問ごとに無回答の割合についても示しています。
- クロス集計結果については、基本的なものを図示し、特徴がある結果のみについてコメントを示しています。

I. 回答者のプロフィール

問1 あなたご自身のことについて、項目ごとにあてはまる番号を1つずつ選んでその番号に○印をつけてください。

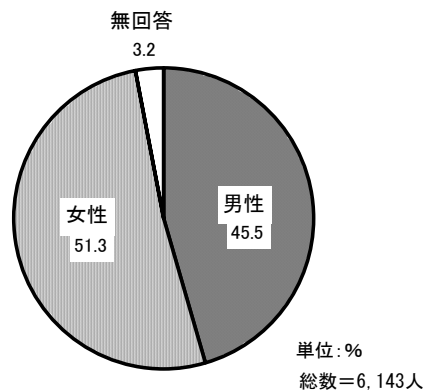
(1) 性別

1. 男性

2. 女性

○「男性」が約46%、「女性」が約51%と、「女性」がやや多くなっています。

図表 I-1-1 性別



(2) 年齢

1. 18～29歳

2. 30～39歳

3. 40～49歳

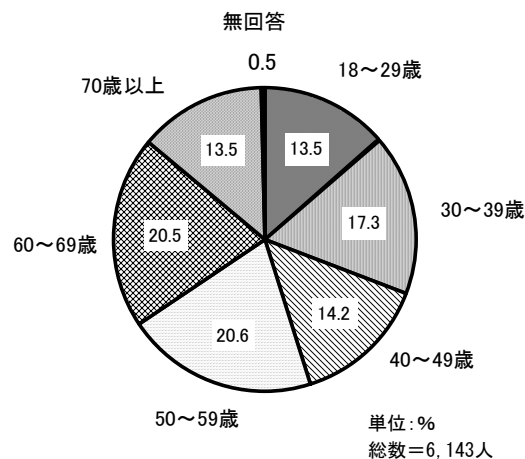
4. 50～59歳

5. 60～69歳

6. 70歳以上

○『50～69歳』の層の回答の割合が高くなっています。

図表 I-2-1 年齢



I. 回答者のプロフィール

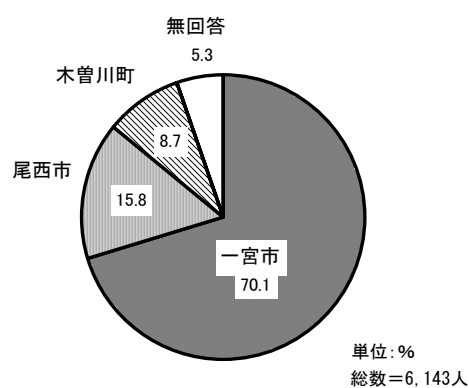
(3) 地域別

1. 一宮市	2. 尾西市	3. 木曽川町
--------	--------	---------

○「一宮市」が約7割を占め、「尾西市」が約16%、「木曽川町」が約9%で、「無回答」も約5%あります。

○なお、それぞれの市町の有効配布数に対する回収率は、「一宮市」に居住する回答者が有効配布数7,497に対して約58%、「尾西市」が1,572に対して約62%、「木曽川町」が860に対して約62%と、「尾西市」と「木曽川町」が「一宮市」より4ポイント程度高くなっています。

図表 I-3-1 地域別

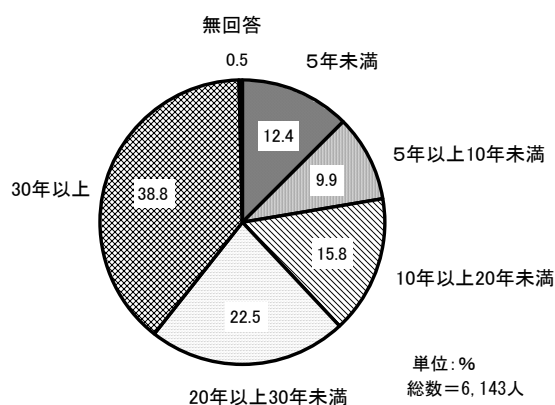


(4) 現在の住まいでの居住年数

1. 5年未満	2. 5年以上10年未満
3. 10年以上20年未満	4. 20年以上30年未満
5. 30年以上	

○「30年以上」が約39%と約4割を占め、「20年以上30年未満」が約23%で、20年以上居住している方の回答が6割を超えています。

図表 I-4-1 居住年数



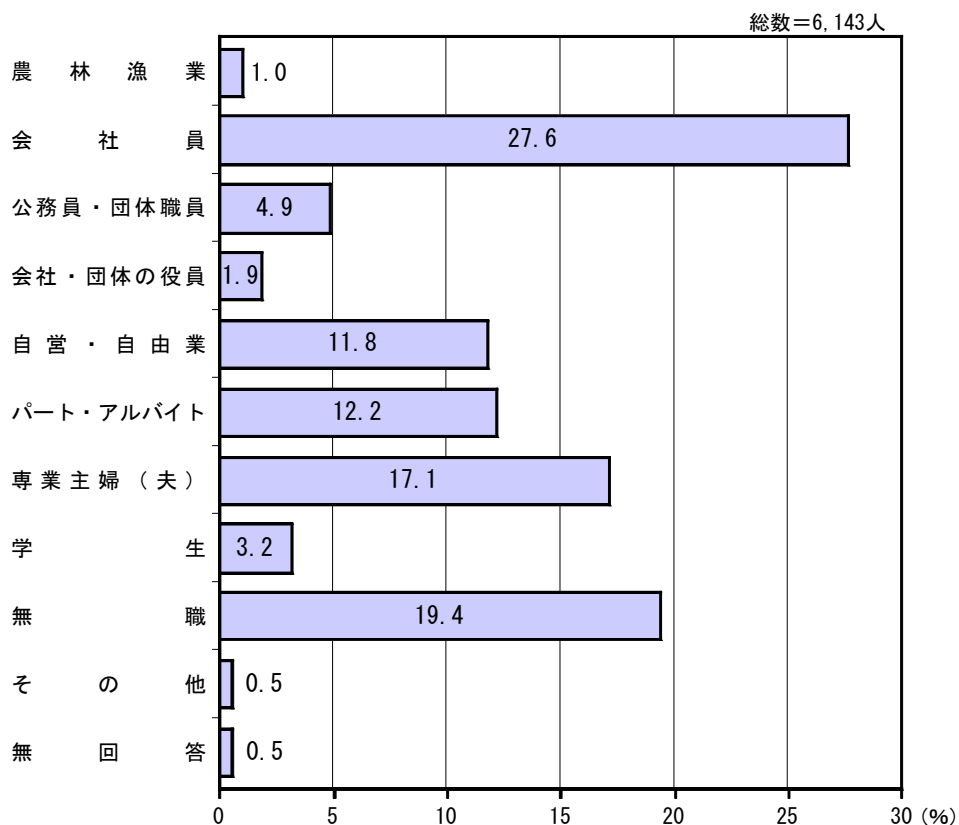
(5) 職業

- | | |
|-------------|--------------|
| 1. 農林漁業 | 2. 会社員 |
| 3. 公務員・団体職員 | 4. 会社・団体の役員 |
| 5. 自営・自由業 | 6. パート・アルバイト |
| 7. 専業主婦（夫） | 8. 学生 |
| 9. 無職 | 10. その他（ ） |

○「会社員」が約28%と、回答者全体の4分の1を超えています。

○このほか、「自営・自由業」と「パート・アルバイト」がそれぞれ約12%、「農林漁業」が約1%、「公務員・団体職員」が約5%、「会社・団体の役員」が約2%となっています。

図表 I-5-1 職業



Ⅱ. 一宮市、尾西市、木曽川町の合併について

Ⅱ. 一宮市、尾西市、木曽川町の合併について

(1) 合併協議についての認知度

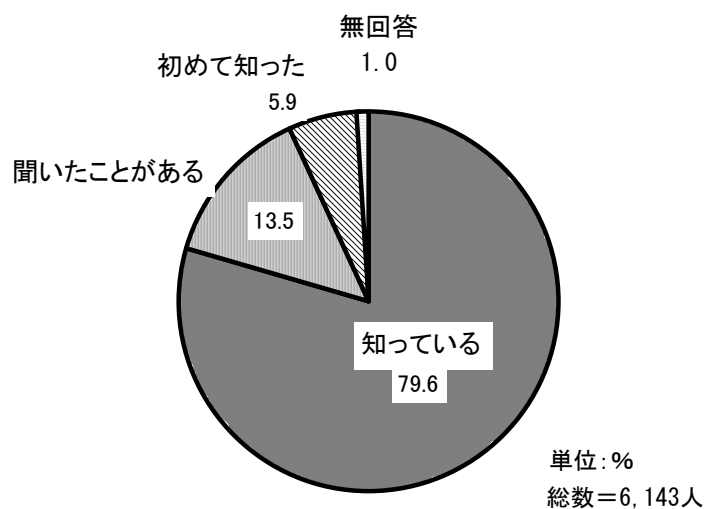
問2 あなたは、一宮市、尾西市、木曽川町で合併協議を進めていることを知っていますか。【1つだけ選んでその番号に○印】

1. 知っている 2. 聞いたことがある 3. 初めて知った

①全体集計

○「知っている」が約80%、また「聞いたことがある」を含めると約93%であり、2市1町が合併協議を進めていることについては、おおむね知られているといえます。

図表Ⅱ-1-1 合併協議についての認知度



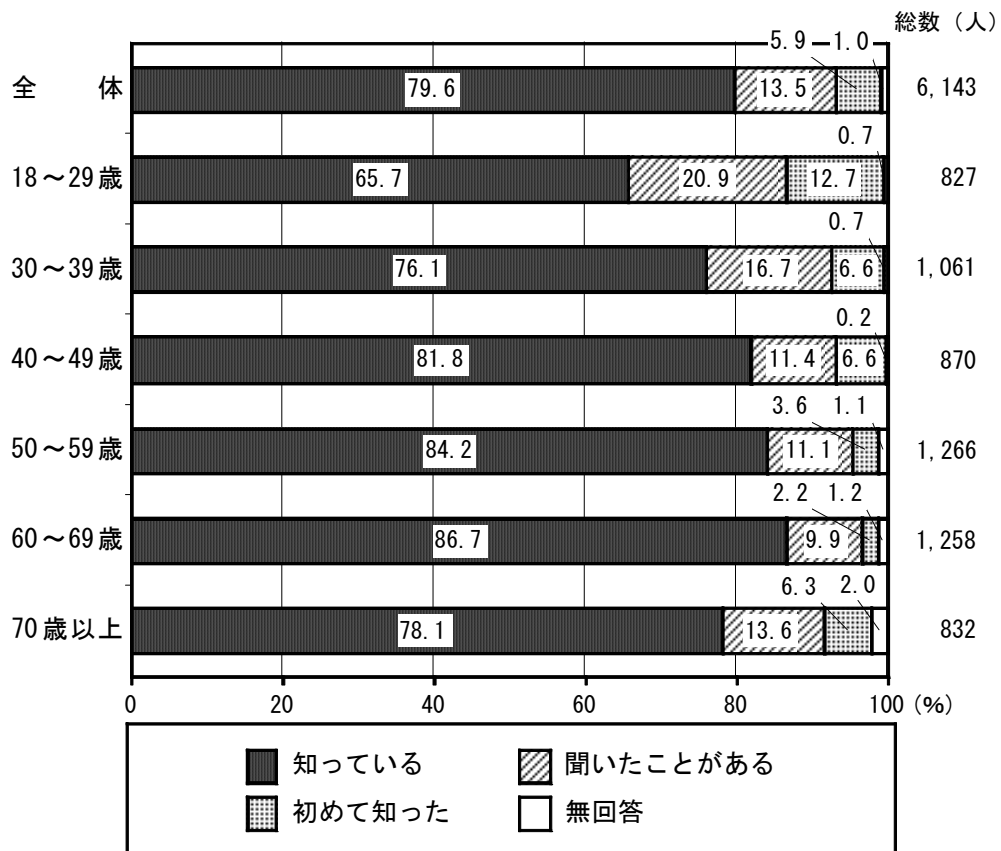
②クロス集計

ア) 年齢別

○『40～69 歳』において、「知っている」が 8 割を超えており、認知度が高くなっています。

○最も若い年齢層の「18～29 歳」では、「初めて知った」が約 13%とほかの年齢層よりも高いポイントになっています。

図表Ⅱ-1-2 合併協議についての認知度（年齢別）



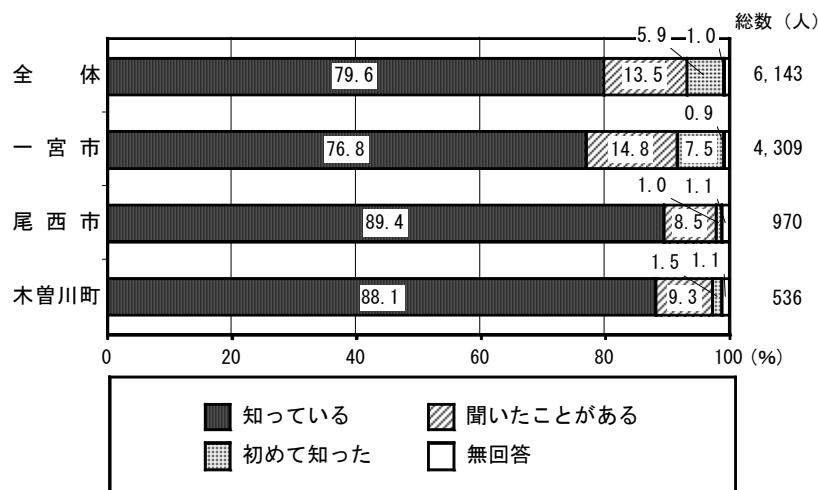
II. 一宮市、尾西市、木曽川町の合併について

イ) 地域別

○地域別に見ると「尾西市」と「木曽川町」では、「知っている」がそれぞれ9割近くに達し、「一宮市」よりも10ポイント以上高くなっています。

○「一宮市」で若干認知度が低いものの、「聞いたことがある」まで含めると、いずれも90%を超えています。

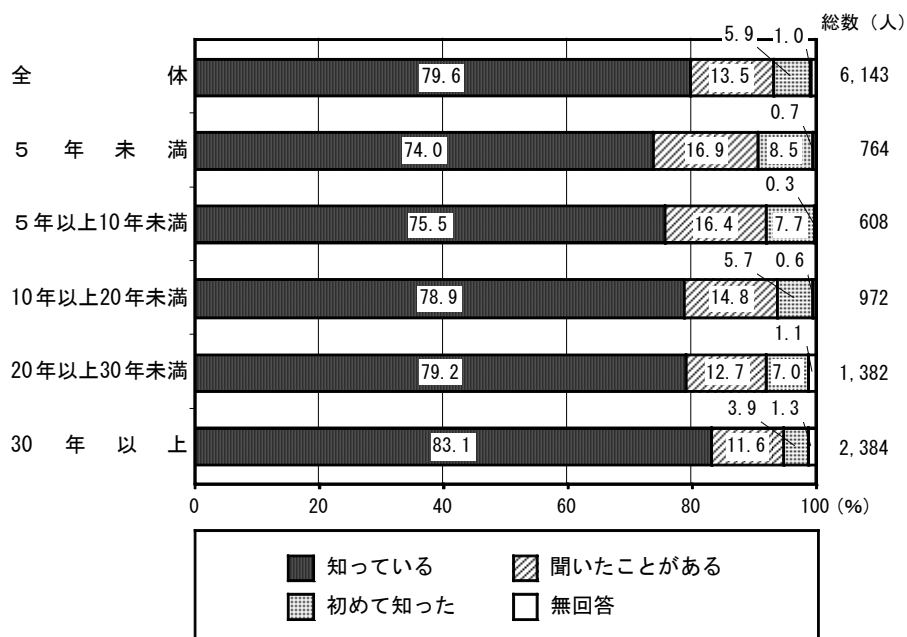
図表 II-1-3 合併協議についての認知度（地域別）



ウ) 居住年数別

○長く居住している回答者ほど「知っている」割合が高くなり、「30年以上」では約83%と、「5年未満」よりも10ポイント近く高くなっています。

図表 II-1-4 合併協議についての認知度（居住年数別）



(2) 一宮市、尾西市、木曾川町の合併協議について知った媒体

(問2で「1」、「2」とお答えになった方におたずねします)

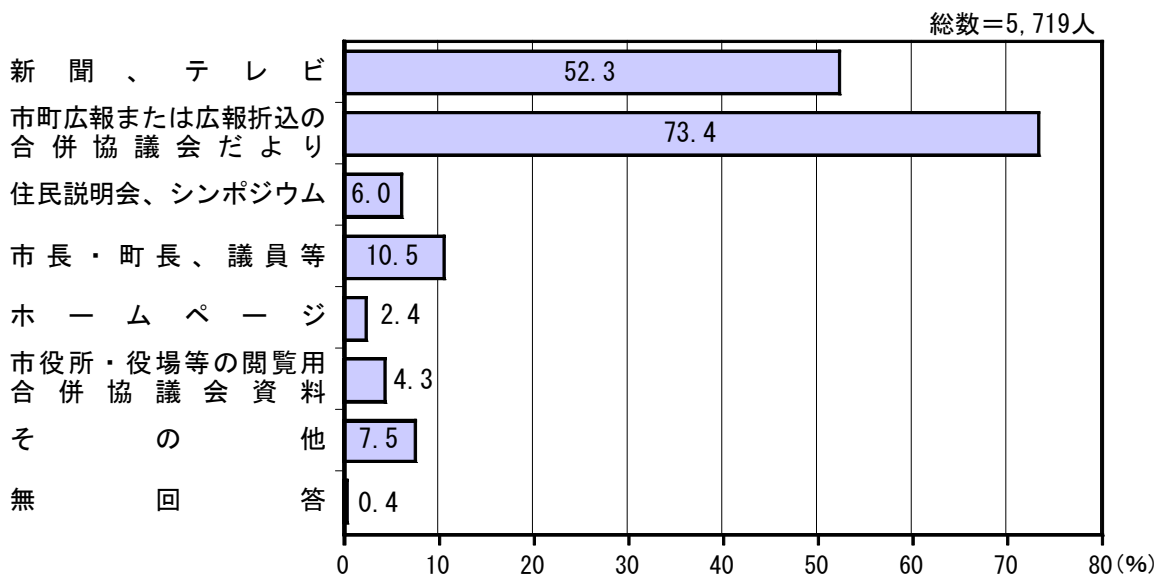
問3 あなたは、一宮市、尾西市、木曾川町で合併協議について、何を通じてお知りになりましたか。【あてはまるもの全てを選んでその番号に○印】

- | | |
|-----------------|-------------------------|
| 1. 新聞、テレビ | 2. 市町広報または広報折込の合併協議会だより |
| 3. 住民説明会、シンポジウム | 4. 市長・町長、議員等 |
| 5. ホームページ | 6. 市役所・役場等の閲覧用合併協議会資料 |
| 7. その他(具体的に |) |

①全体集計

- 「市町広報または広報折込の合併協議会だより」が約73%、「新聞、テレビ」が約52%と、この二つの項目に回答が集中しています。
- 「その他」としては、「友人・知人」という回答や「家族」、「町内・連区の集まり」、「職場」、「老人会」などの回答がありました。

図表Ⅱ-2-1 合併協議について知った媒体



II. 一宮市、尾西市、木曽川町の合併について

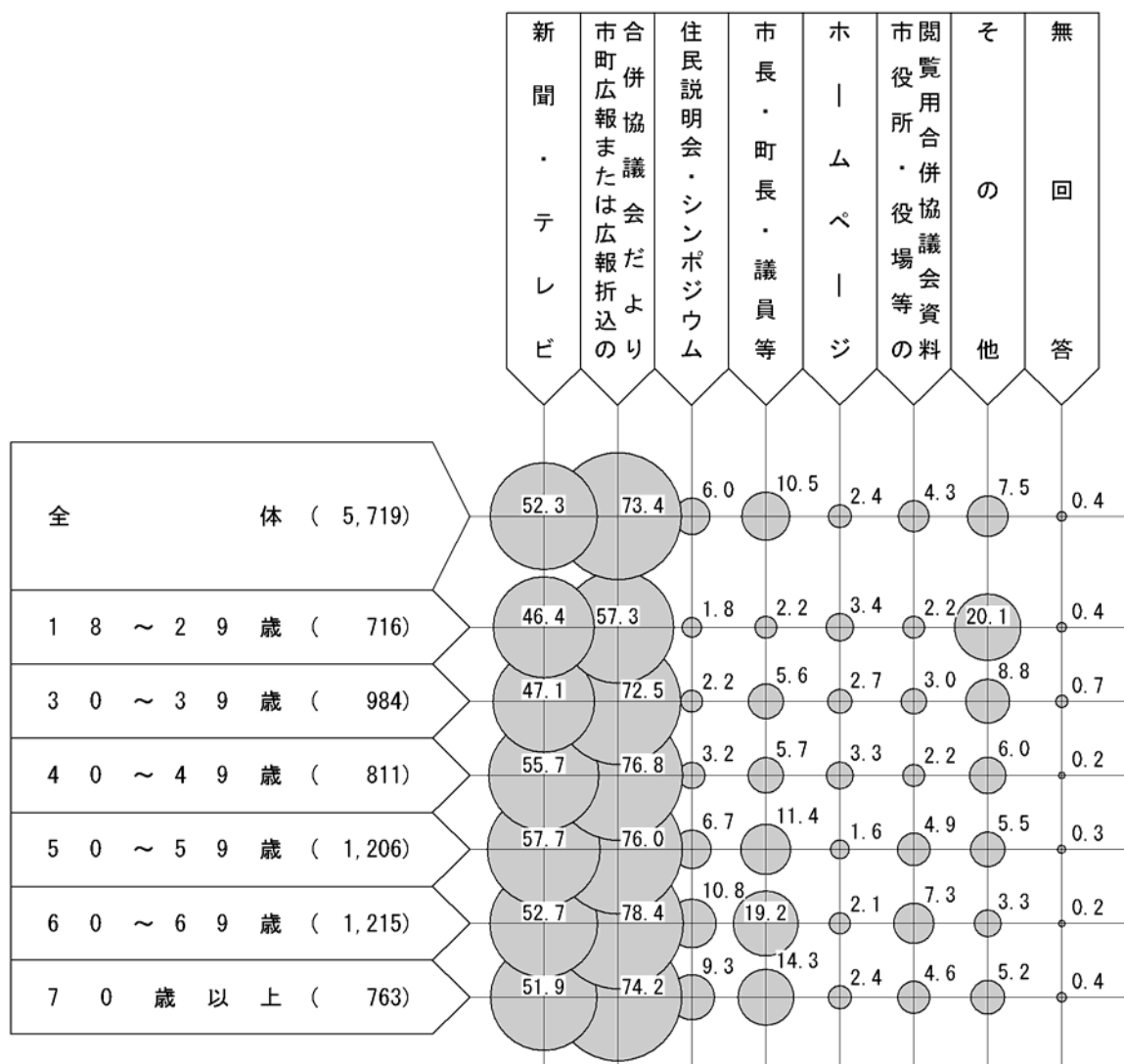
②クロス集計

ア) 年齢別

○年齢別に見ると『30歳以上』の年齢層で「市町広報または広報折込の合併協議会だより」が7割を超え、『40歳以上』で「新聞・テレビ」が5割を超えます。

○また、『60歳以上』で「市長・町長、議員等」、「住民説明会、シンポジウム」と、直接関係者から聞いた方の割合が高い傾向があります。

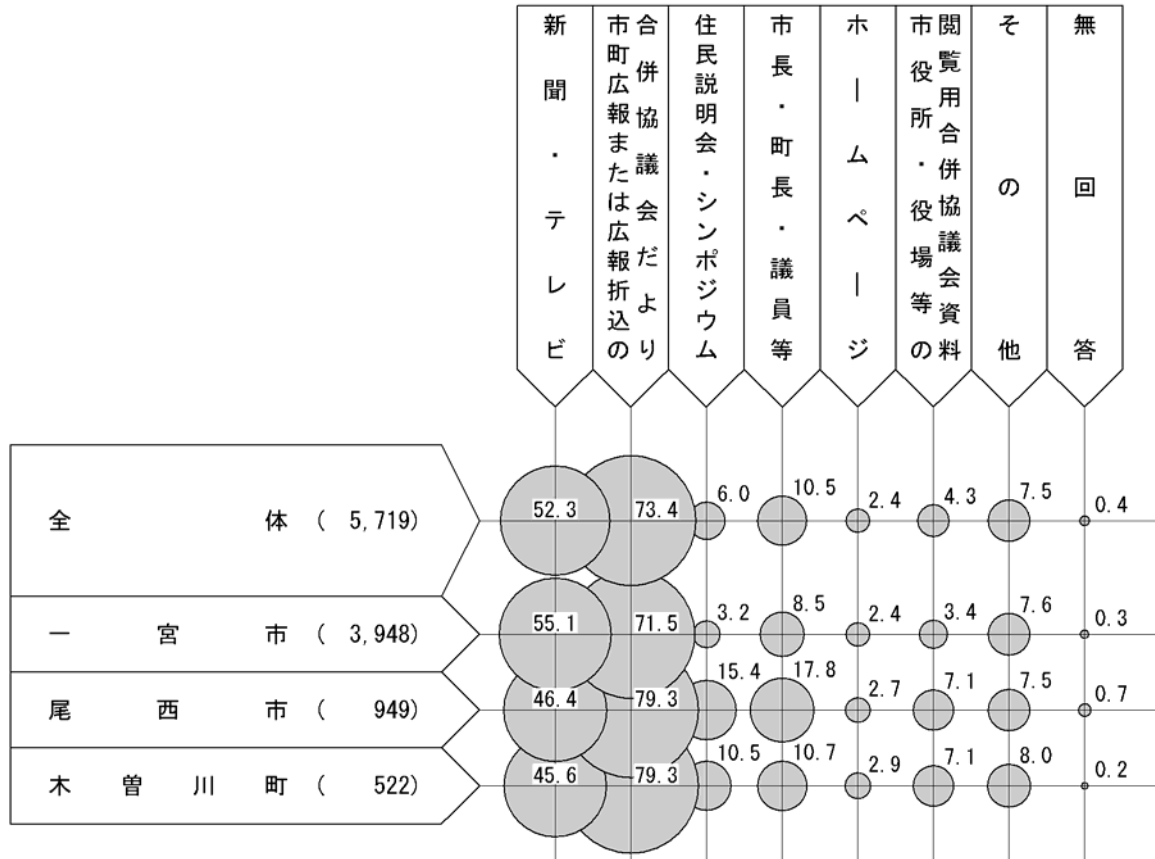
図表 II-2-2 合併協議について知った媒体（年齢別）



イ) 地域別

○「尾西市」と「木曾川町」では、「新聞・テレビ」以外の媒体で知った割合が「一宮市」よりも高くなっています。

図表Ⅱ-2-3 合併協議について知った媒体（地域別）



Ⅱ. 一宮市、尾西市、木曽川町の合併について

(3) 一宮市、尾西市、木曽川町の合併についての関心

問4 あなたは、一宮市、尾西市、木曽川町の合併について関心がありますか。

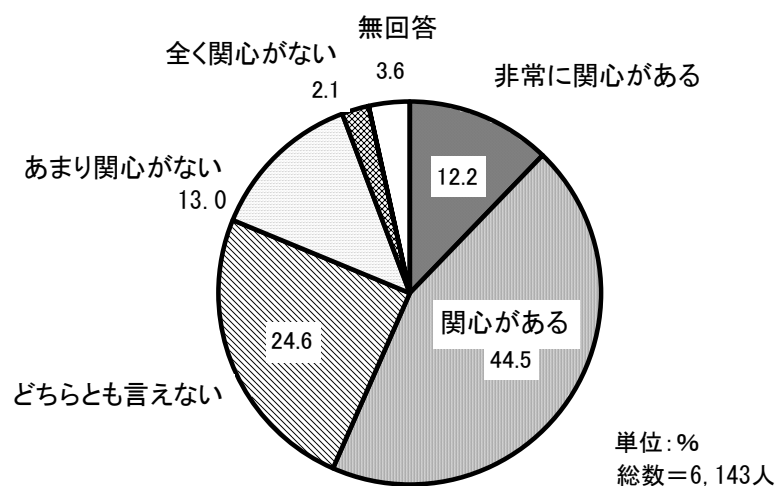
【1つだけ選んでその番号に○印】

- | | |
|--------------|-------------|
| 1. 非常に関心がある | 2. 関心がある |
| 3. どちらとも言えない | 4. あまり関心がない |
| 5. 全く関心がない | |

①全体集計

○「関心がある」が約45%、「非常に関心がある」が約12%で、合わせて6割近くの方が関心を持っています。一方、『関心がない』と意思表示された方は約15%となっています。

図表Ⅱ-3-1 合併についての関心

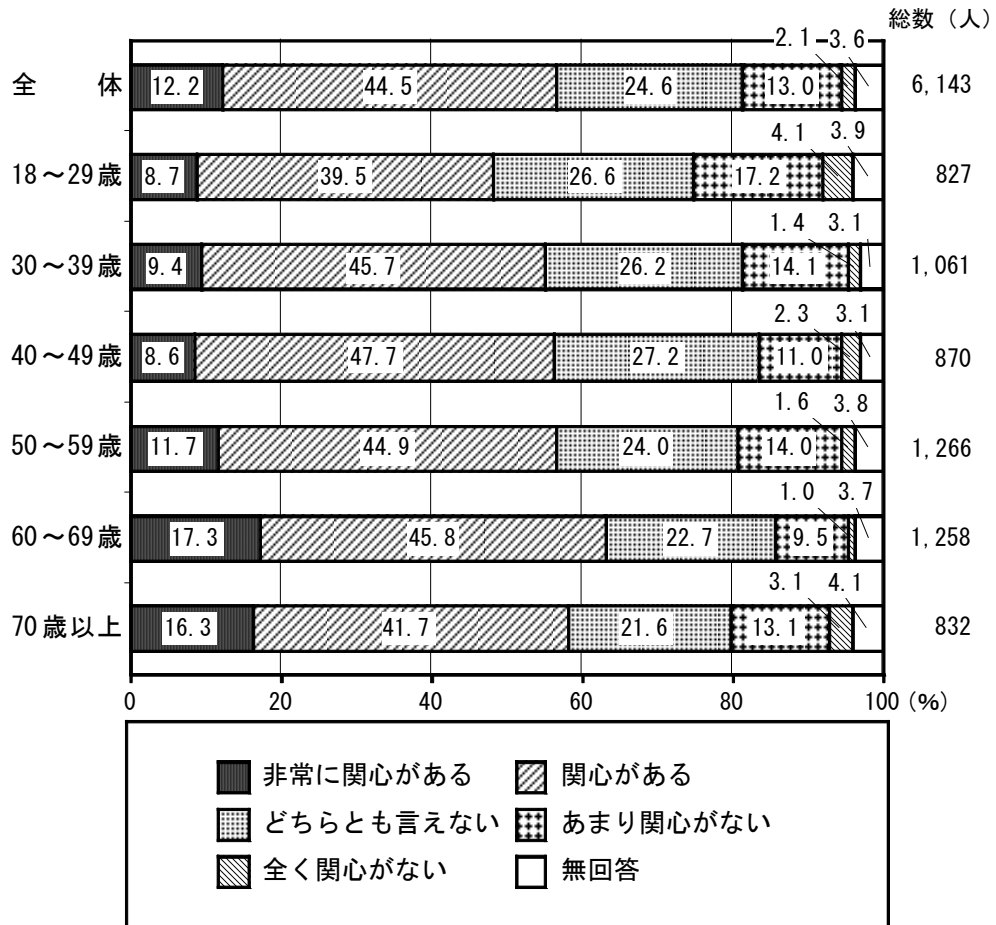


②クロス集計

ア) 年齢別

○全体の傾向として年齢層が高くなるほど合併への関心が高くなっているのうかがえます。特に、「60～69歳」と「70歳以上」では、「非常に関心がある」が他の年齢層に比べ高くなっています。

図表Ⅱ-3-2 合併についての関心（年齢別）

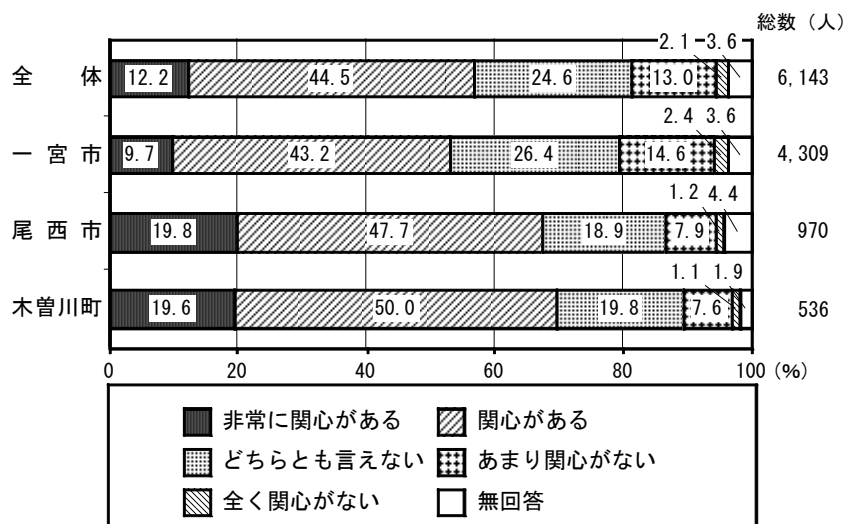


II. 一宮市、尾西市、木曽川町の合併について

イ) 地域別

○「尾西市」と「木曽川町」では『関心がある』が7割近くと、高い関心を示している一方で、「一宮市」では関心が低い傾向にあります。

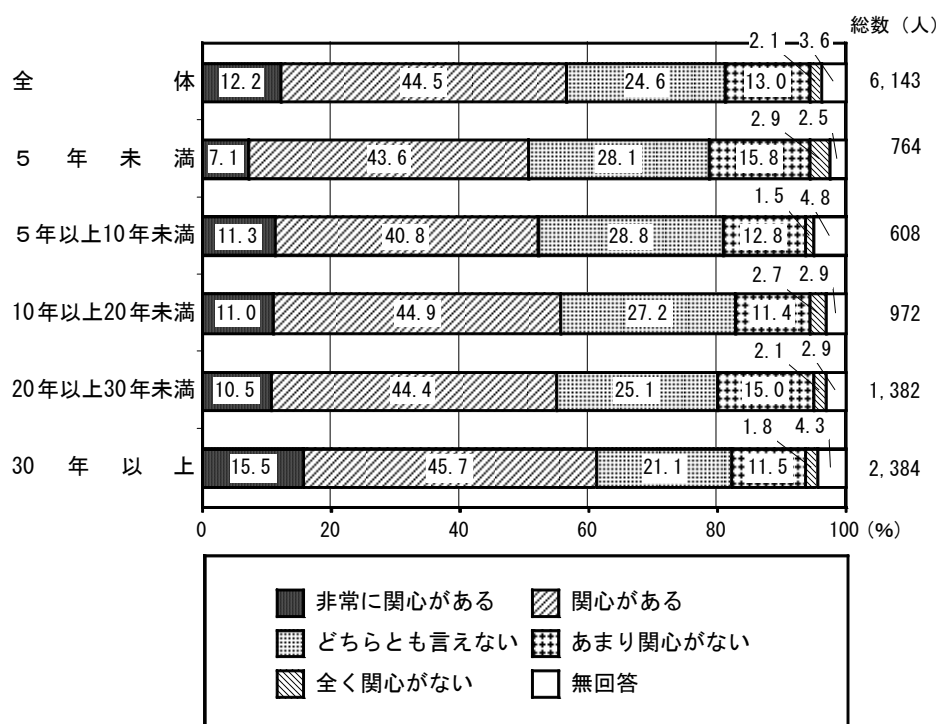
図表 II-3-3 合併についての関心（地域別）



ウ) 居住年数別

○長く住んでいる回答者ほど『関心がある』割合が高くなっており、「30年以上」では約6割を超えています。

図表 II-3-4 合併についての関心（居住年数別）



Ⅲ. 合併についての期待と不安

(1) 合併についての期待

問5 あなたは、一宮市、尾西市、木曾川町が合併するにあたって、どのような点に期待をしますか。【2つまで選んでその番号に○印】

1. 現在の市町では受けられないサービスが受けられるようになること
2. 他の市町の公共施設が広域的に利用できるようになること
3. 行政職員の能力が向上し、高度で専門的なサービスが受けられるようになること
4. 財政規模が拡大し、高水準の施設整備が可能になること
5. 国、県から権限が移譲され総合的な行政サービスが可能になること
6. 人口規模が拡大し、地域のイメージが向上すること
7. 近隣市町で類似の施設整備をする必要がなくなること
8. 組織の合理化で議員、職員の人件費など経費の大幅な削減が可能となること
9. 特に期待はしない
10. その他（具体的に)

①全体集計

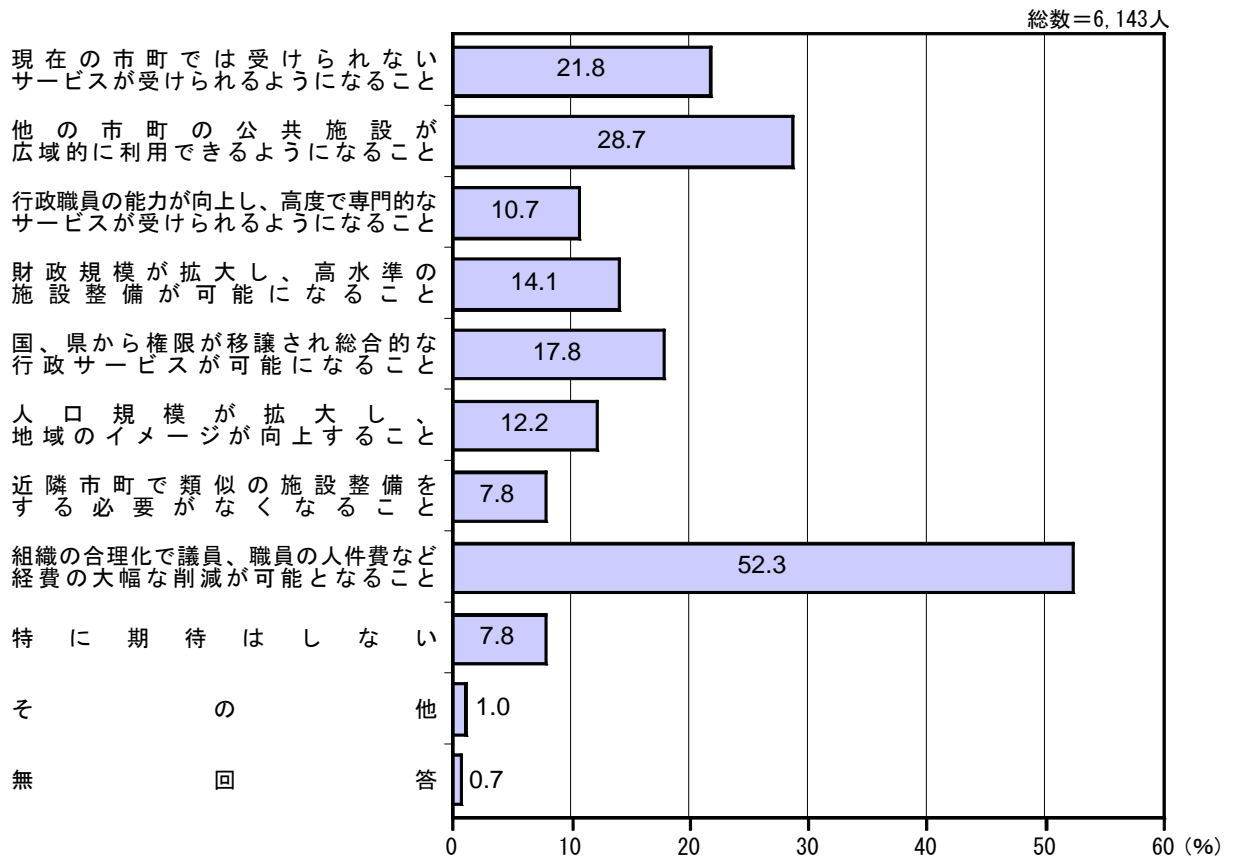
○過半数の方が「組織の合理化で議員、職員の人件費など経費の大幅な削減が可能となること」をあげており、合併による行政改革への期待が極めて高いことがうかがえます。

○また、「他の市町の公共施設が広域的に利用できるようになること」が約 29%、「現在の市町では受けられないサービスが受けられるようになること」が約 22%と続いており、施設の広域的利用やサービスの広域的な提供を求める声も強いことがわかります。

○「その他」としては、「地名が長いのが簡略になる」、「住所が郡から市になる」、「相互扶助による産業の活性化」、「福祉の充実」、「税金の無駄遣いなくなる」、「他の合併市町村のモデルタウンになる」、「交通アクセスの充実」、「子育て支援の充実」、「障害者福祉・手当の充実」などの回答がありました。

Ⅲ. 合併についての期待と不安

図表Ⅲ-1-1 合併についての期待

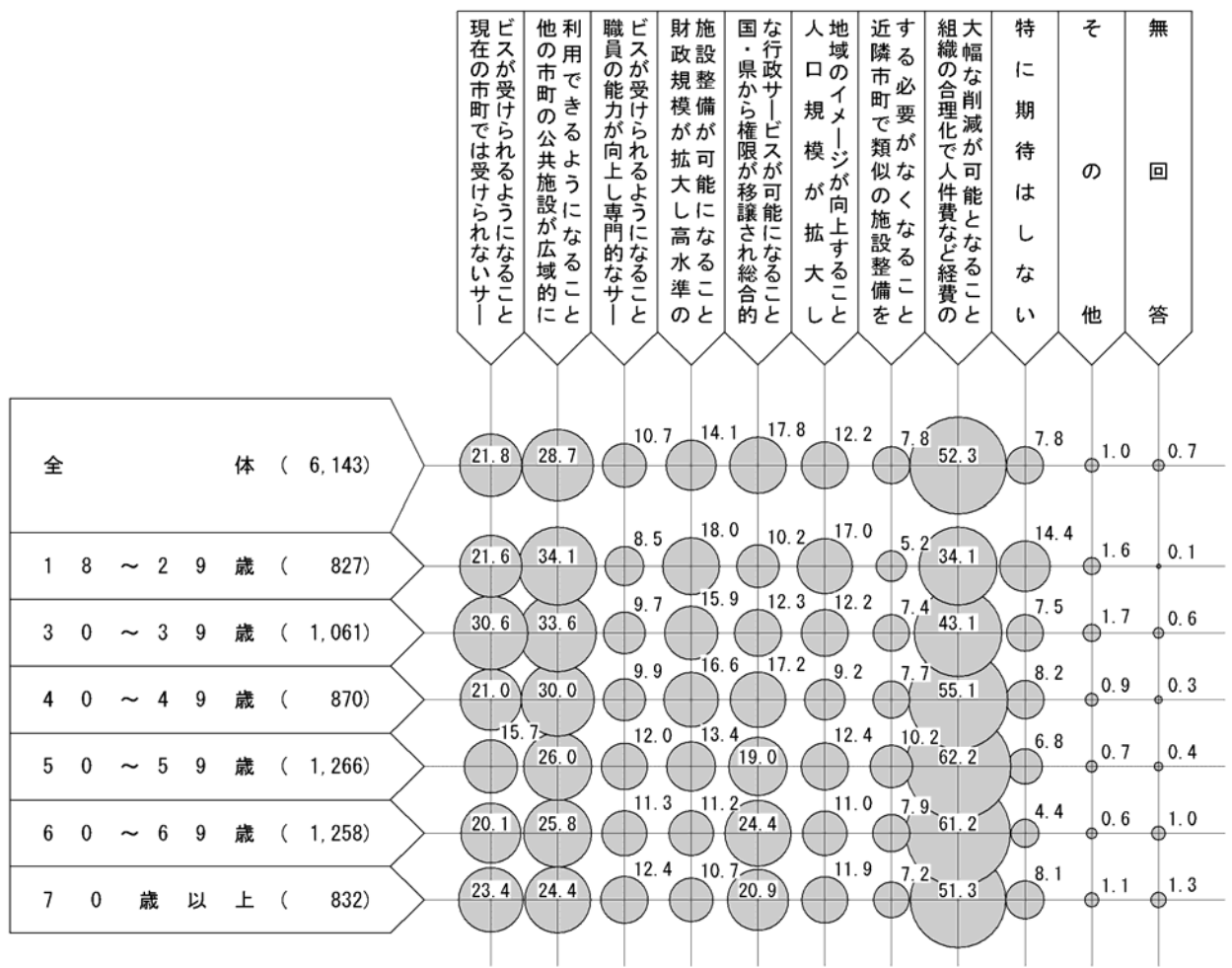


②クロス集計

ア) 年齢別

○おおむね高い年齢層が「組織の合理化で議員、職員の人件費など経費の大幅な削減が可能となること」に期待する割合が高く、「他の市町の公共施設が広域的に利用できるようになること」と「現在の市町では受けられないサービスが受けられるようになること」について期待する割合が低い傾向にあります。一方、若い年齢層ほど、逆の傾向が見られます。

図表Ⅲ-1-2 合併についての期待（年齢別）

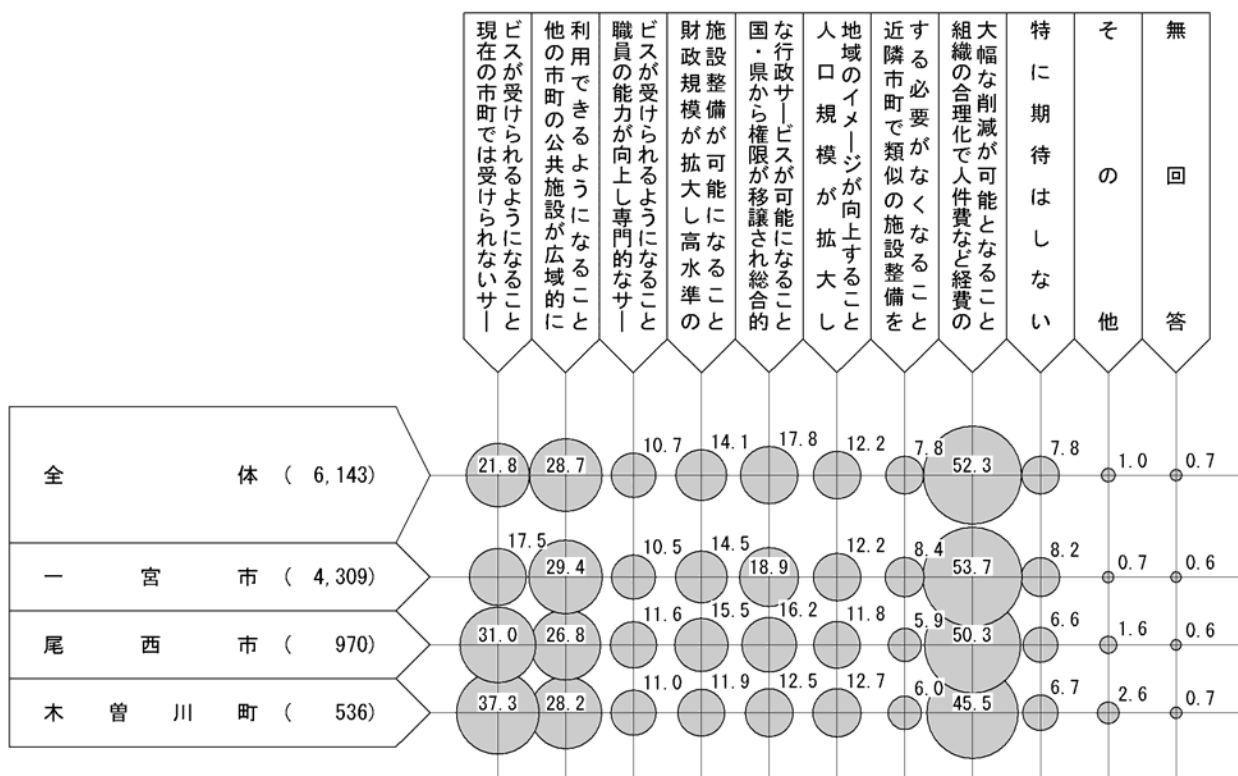


Ⅲ. 合併についての期待と不安

イ) 地域別

○「一宮市」では、「組織の合理化で議員、職員の人件費など経費の大幅な削減が可能となること」が過半数を超える一方で、「現在の市町では受けられないサービスが受けられるようになること」は約 18%で、「木曾川町」の半分以下です。逆に、「尾西市」と「木曾川町」では「現在の市町では受けられないサービスが受けられるようになること」に期待する声が強く、特に「木曾川町」ではその傾向が顕著です。

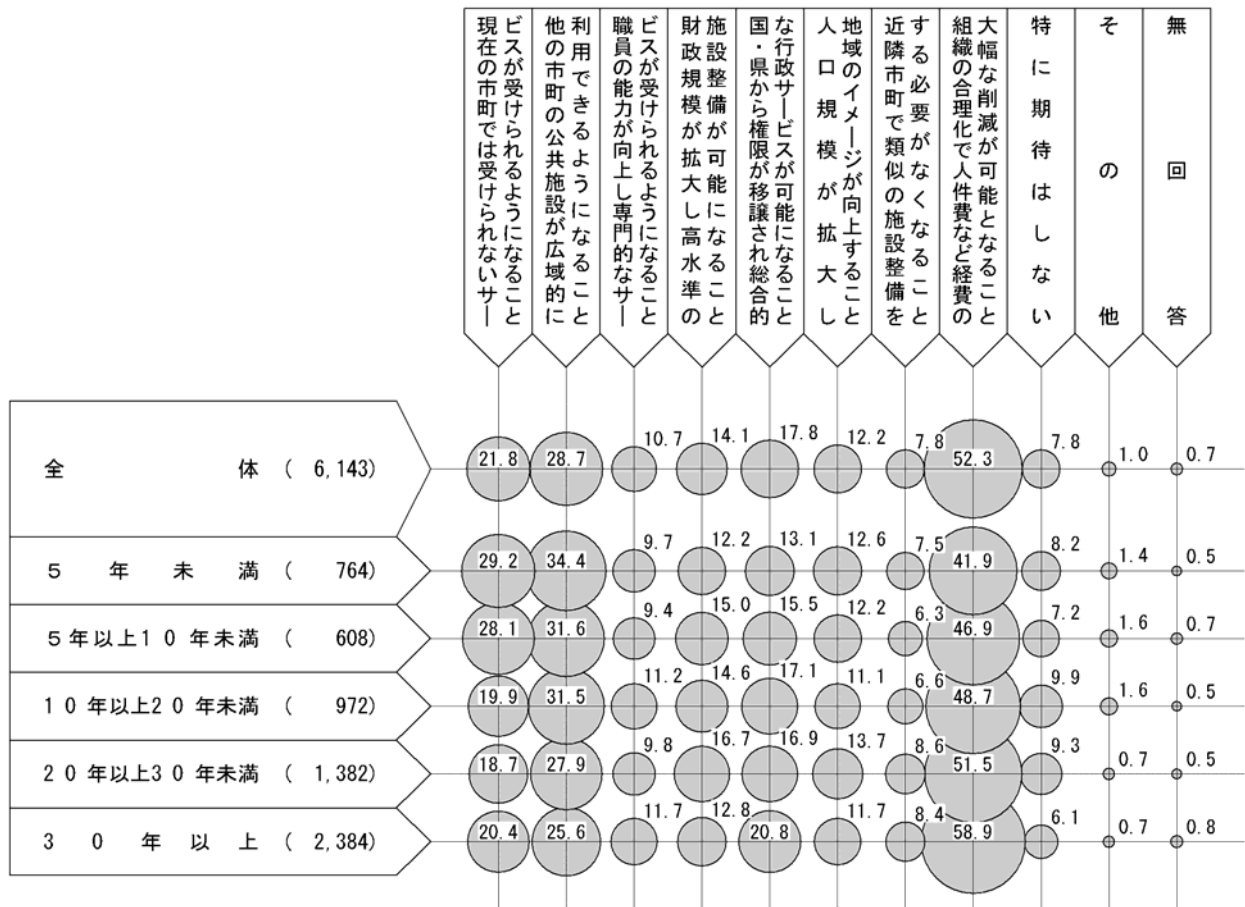
図表Ⅲ-1-3 合併についての期待（地域別）



ウ) 居住年数別

- 長く住んでいる回答者ほど「組織の合理化で議員、職員の人件費など経費の大幅な削減が可能となること」の割合が高く、行政改革への期待が高くなっています。
- 居住年数が短い回答者では、「現在の市町では受けられないサービスが受けられるようになること」と「他の市町の公共施設が広域的に利用できるようになること」が高く、サービス拡大への期待がうかがえます。

図表Ⅲ-1-4 合併についての期待（居住年数別）

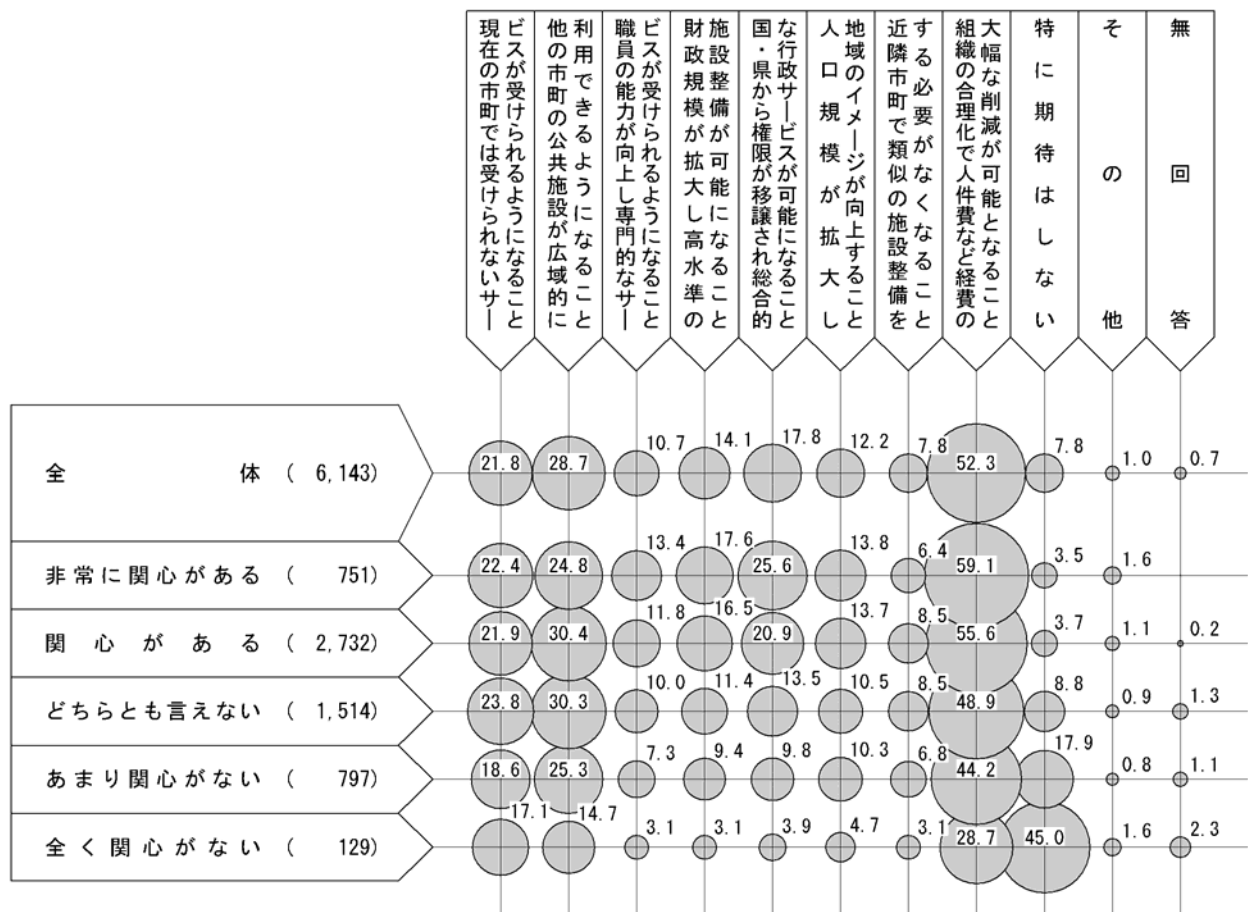


Ⅲ. 合併についての期待と不安

エ) 合併についての関心度別

○合併について関心が高いほど「組織の合理化で議員、職員の人件費など経費の大幅な削減が可能となること」の割合が高く、合併への関心は行政改革への期待と比例していることが分かります。さらに、「非常に関心がある」回答者では「国、県から権限が移譲され総合的な行政サービスが可能になること」が4分の1を超えているのが特徴です。

図表Ⅲ-1-5 合併についての期待（合併についての関心度別）



(2) 合併についての不安

問6 あなたは、一宮市、尾西市、木曾川町が合併するにあたって、どのような点に不安を感じますか。

【2つまで選んでその番号に○印】

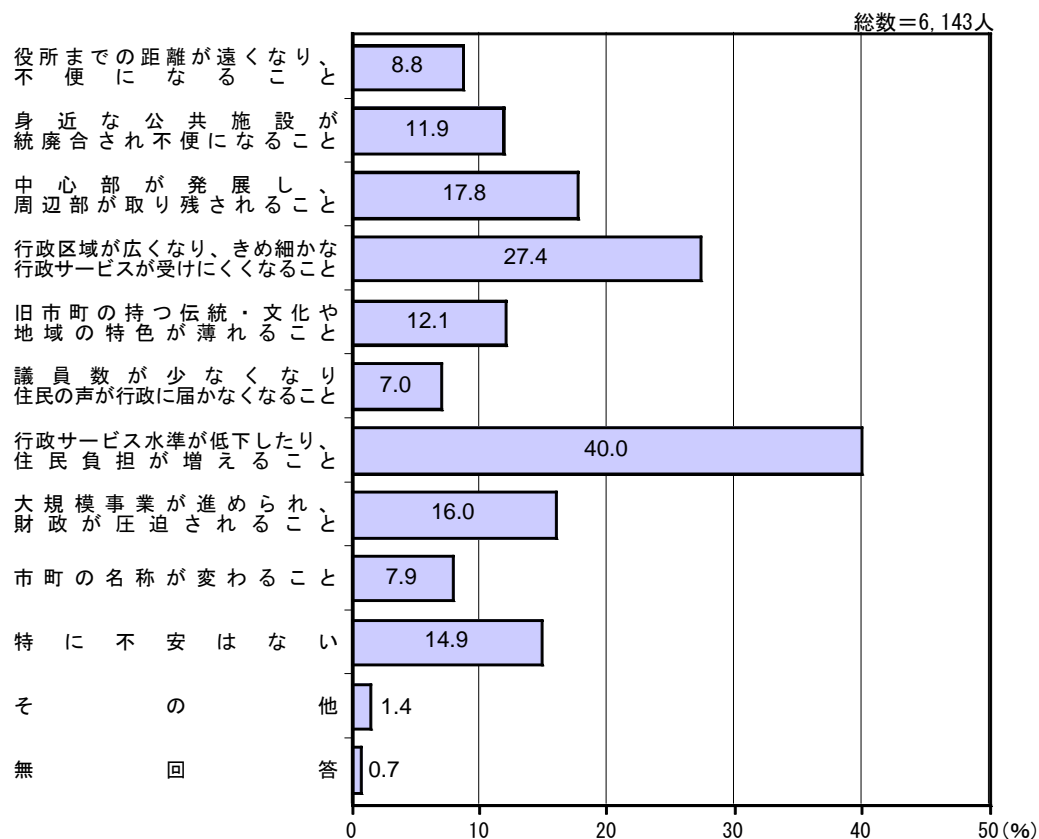
1. 役所までの距離が遠くなり、不便になること
2. 身近な公共施設が統廃合され不便になること
3. 中心部が発展し、周辺部が取り残されること
4. 行政区域が広くなり、きめ細かな行政サービスが受けにくくなること
5. 旧市町の持つ伝統・文化や地域の特色が薄れること
6. 議員数が少なくなり住民の声が行政に届かなくなること
7. 行政サービス水準が低下したり、住民負担が増えること
8. 大規模事業が進められ、財政が圧迫されること
9. 市町の名称が変わること
10. 特に不安はない
11. その他（具体的に)

①全体集計

- 「行政サービス水準が低下したり、住民負担が増えること」が40%、次いで「行政区域が広くなり、きめ細かな行政サービスが受けにくくなること」が約27%となっており、行政サービスや住民負担の面での水準低下を懸念する声が強いことがうかがえます。
- そのほか、「中心部が発展し、周辺部が取り残されること」と地域格差を懸念する声、「大規模事業が進められ、財政が圧迫されること」といった財政的な面を懸念する声も強い一方で、「特に不安はない」という意見も5番目に高い結果となっています。
- 「その他」としては、「繊維に代わる産業振興が不明確で税収が少ない」、「赤字同士の合併で更なる財政悪化」、「増税になること」、「役人の裁量が大きくなり職員の質に左右される」、「過剰な職員がさらに過剰になり質が低下すること・人件費の増加」、「旧市町の主導権争いで市政が停滞すること」、「旧市町の悪いところばかり残ること」、「本籍地や住所が変わること」などの回答がありました。

Ⅲ. 合併についての期待と不安

図表Ⅲ-2-1 合併についての不安

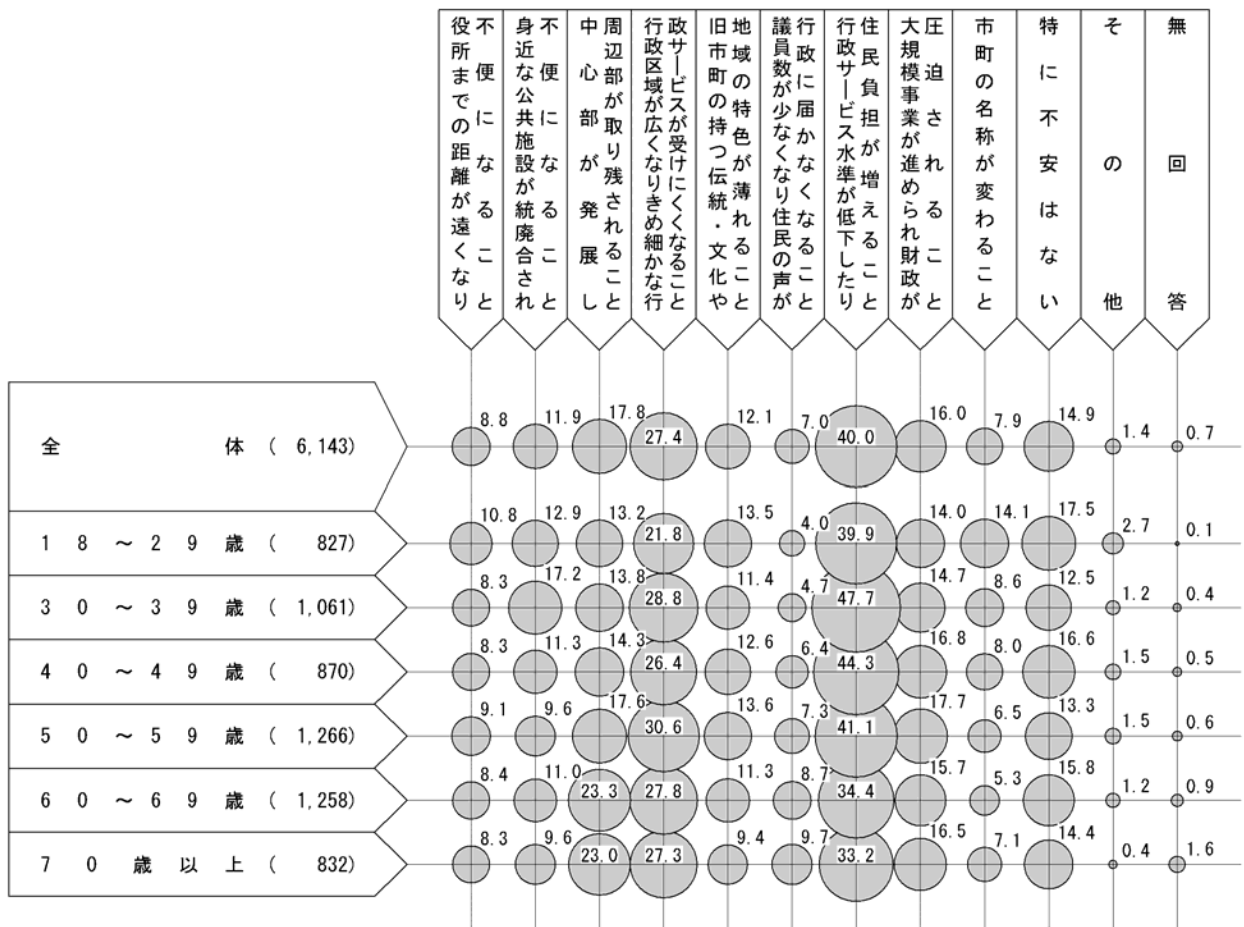


②クロス集計

ア) 年齢別

- 「30～39 歳」を中心に若い年齢層ほど「行政サービス水準が低下したり、住民負担が増えること」が高い傾向にあり、逆に、高い年齢層では「中心部が発展し、周辺部が取り残されること」についての懸念が強くなっています。
- また、「市町の名称が変わること」については、「18～29 歳」の若い世代が約 14% となっており、他の世代に比べて際立っています。

図表Ⅲ-2-2 合併についての不安（年齢別）

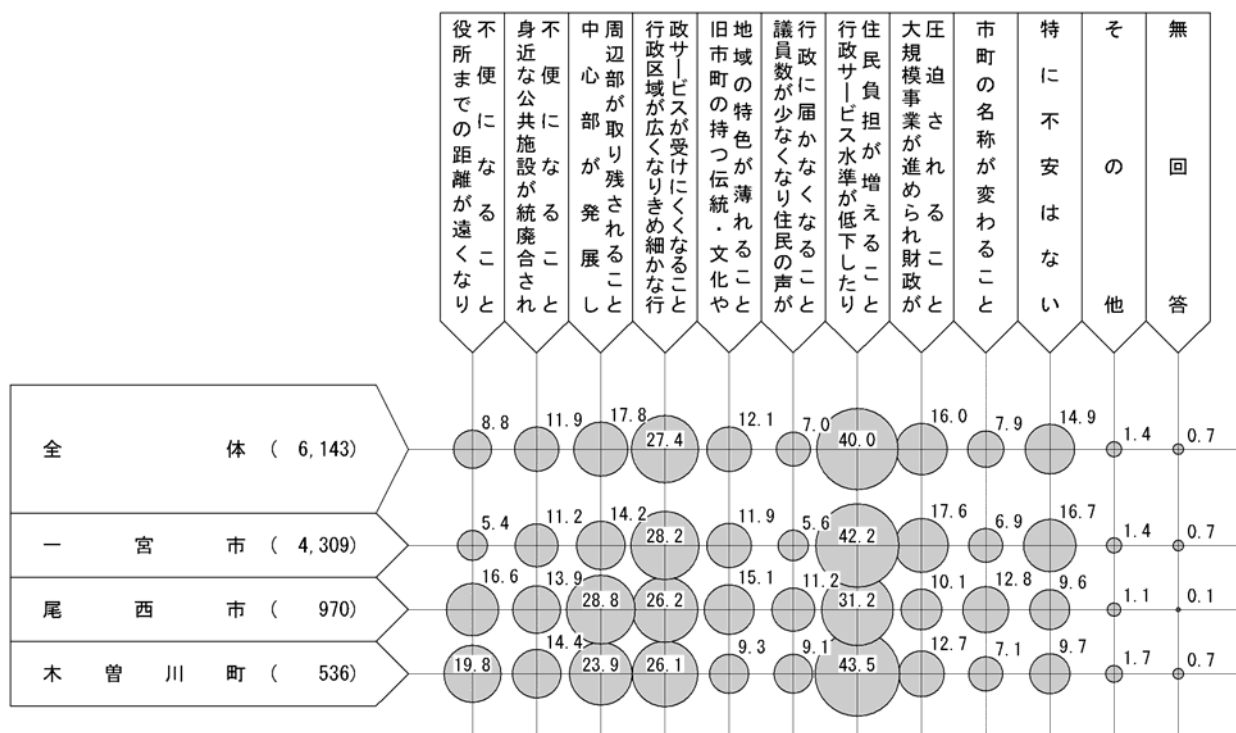


Ⅲ. 合併についての期待と不安

イ) 地域別

- 「一宮市」では、「行政サービス水準が低下したり、住民負担が増えること」と「行政区域が広くなり、きめ細かな行政サービスが受けにくくなること」の2点に集中していますが、その次に「特に不安はない」の割合が高いのが特徴です。
- 「尾西市」と「木曾川町」でも、傾向としては「一宮市」とおおむね同じですが、「一宮市」よりも回答が分散しています。特に、「中心部が発展し、周辺部が取り残されること」と「役所までの距離が遠くなり、不便になること」の割合が高くなっており、地域格差を懸念する声が強くなっています。
- 「尾西市」では「中心部が発展し、周辺部が取り残されること」と「行政区域が広くなり、きめ細かな行政サービスが受けにくくなること」の順位が他市町に比べて逆転しており、地域格差についてより危機感が強いことがうかがえます。「市町の名称が変わること」については、「尾西市」の割合が高く、逆に、「木曾川町」では「特に不安はない」よりもポイントが低いなど、それほど抵抗感がないことがうかがえます。

図表Ⅲ-2-3 合併についての不安（地域別）



IV. 合併後のまちづくりについて

現在、合併後のまちづくりの計画(新市建設計画)の策定作業を進めています。その検討素案の中で、合併後の新しいまちの将来像を次のとおりとしています。

「木曾の清流に映え、心ふれあう躍動都市 一宮」

また、この都市像を基本に、以下の施策に重点的に取り組んでいくことが提案されています。

I 水と緑を活かしたまちづくり

(“水と緑のネットワーク構想”)

II 住民の個性を尊重した生きがいのまちづくり

(“個性が輝く生きがいのまち構想”)

III 広域交通網などを生かした様々な交流が生まれるまちづくり

(“いきいき交流都市構想”)

(1) 合併後のまちづくりに生かすべき2市1町の特徴

問7 合併後のまちづくりを進めていく上では、一宮市、尾西市、木曾川町の持つ特色(地域資源)を最大限に生かしていくことが必要と考えていますが、あなたは、どのような特色を生かしていくことが重要とお考えですか。

【2つまで選んでその番号に○印】

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. 木曾川を中心とした水環境 | 2. 水辺空間や農地など豊かな緑 |
| 3. 比較的ゆとりある住環境 | 4. 温かみのある住民同士の交流 |
| 5. 歴史ある社寺や文化財 | 6. 繊維産業を中心とした地場産業 |
| 7. 高速道路、鉄道など広域交通の利便性 | 8. 尾張西部の中核としての機能、賑わい |
| 9. その他(具体的に |) |

①全体集計

○「比較的ゆとりある住環境」が約37%、「尾張西部の中核としての機能、賑わい」が約30%、「木曾川を中心とした水環境」が約28%であることなど、回答が分かれています。大別すると豊かな住環境、豊かな水辺・緑、尾張西部の都市的な利便性の3点をまちづくりに生かしていくことが必要であるという結果になっています。

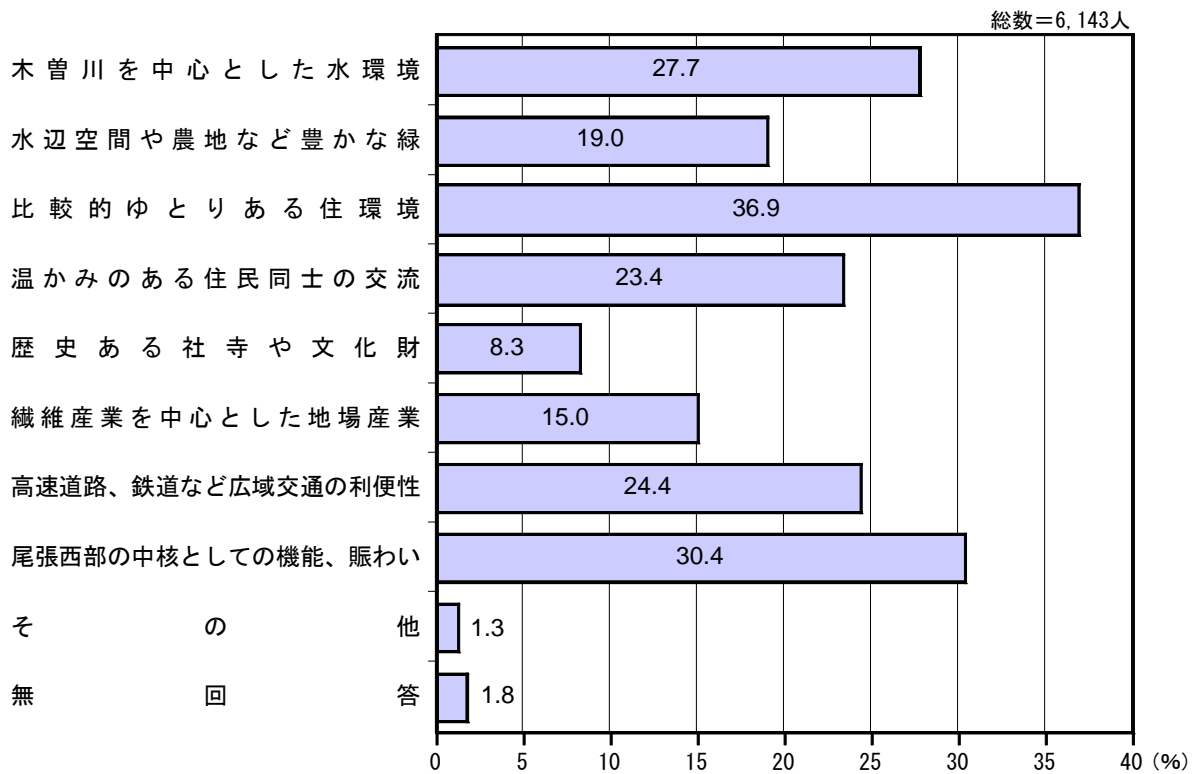
○次いで、「高速道路、鉄道など広域交通の利便性」が約24%で「温かみのある住

IV. 合併後のまちづくりについて

「民同士の交流」が約23%、「水辺空間や農地など豊かな緑」が約19%であり、全体的に環境面と都市的な特性、住民の交流に回答が集まっているといえます。

○「その他」としては、「暮らしやすさ」、「平らな地形を利用した自転車道整備」、「利便性を活用した大学や成長企業の誘致」などの回答がありました。

図表IV-1-1 合併後のまちづくりに生かすべき2市1町の特徴

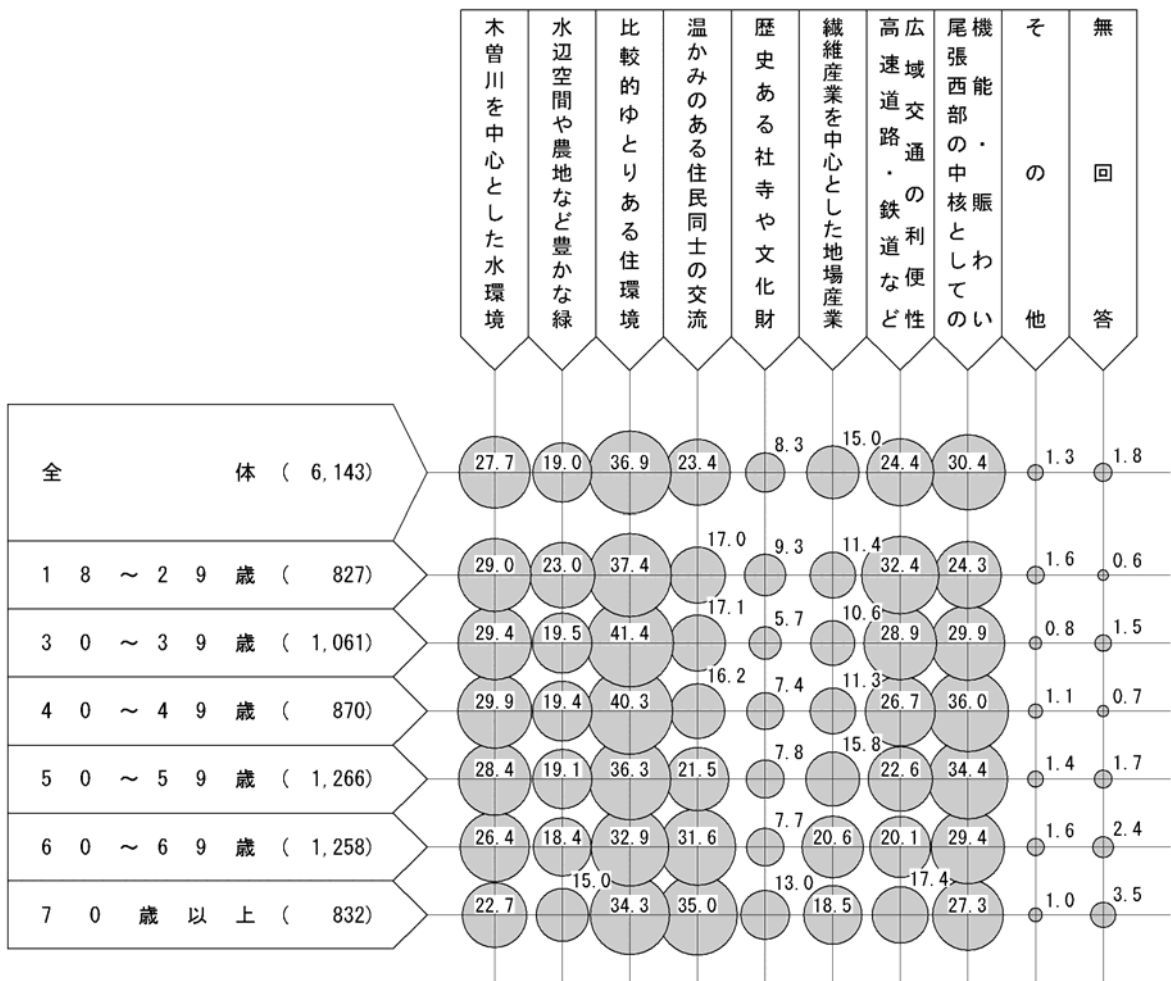


②クロス集計

ア) 年齢別

○若い年齢層では「木曾川を中心とした水環境」、「水辺空間や農地など豊かな緑」といった現況面の特色、あるいは「高速道路、鉄道などの広域交通の利便性」を支持する傾向が強く、逆に、高い年齢層では「温かみのある住民同士の交流」や「繊維産業を中心とした地場産業」を支持する傾向があります。

図表IV-1-2 合併後のまちづくりに生かすべき2市1町の特徴（年齢別）



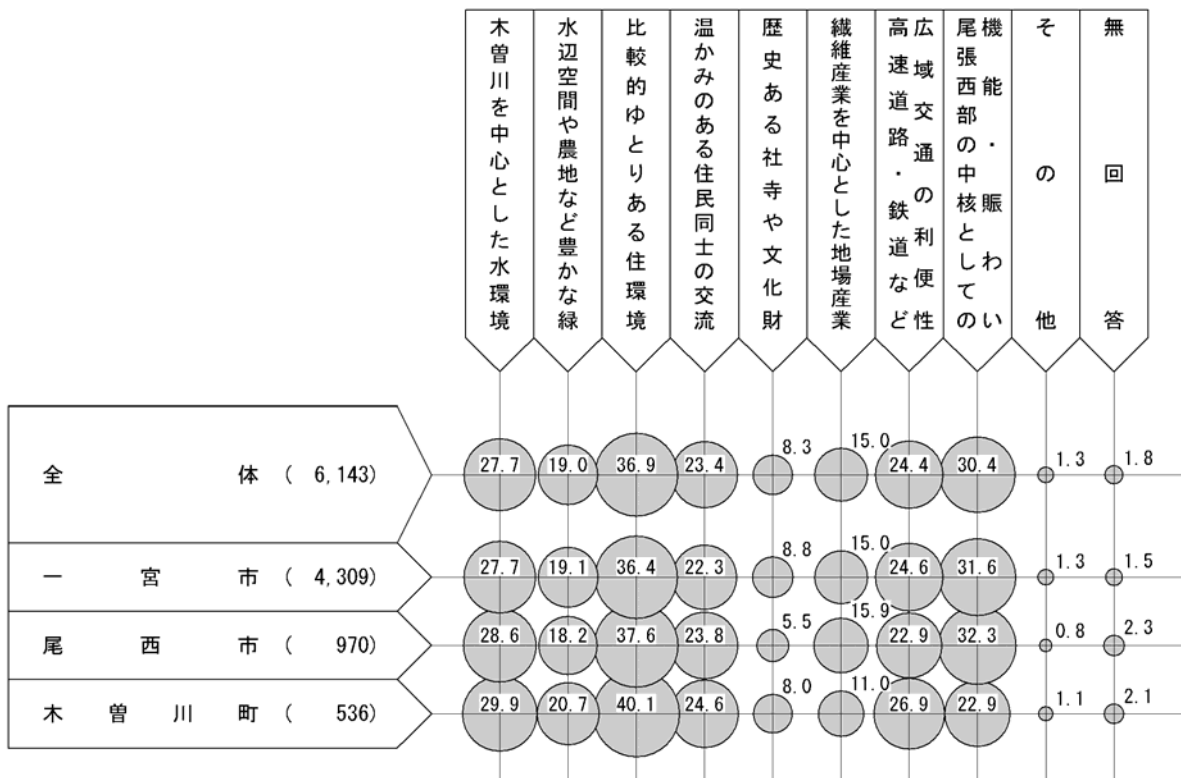
IV. 合併後のまちづくりについて

イ) 地域別

○2市1町とも同じ傾向が見られますが、「一宮市」、「尾西市」では、「尾張西部の中核としての機能、賑わい」が3割を超えるとともに、「繊維産業を中心とした地場産業」が15%以上となっており、都市機能と繊維産業を生かす考え方を支持しています。

○「木曾川町」では「比較的ゆとりある住環境」が約4割と「一宮市」、「尾西市」よりもやや高くなっています。

図表IV-1-3 合併後のまちづくりに生かすべき2市1町の特徴（地域別）



(2) 新市のまちづくりに際して力点をおくべき施策分野

問8 あなたは、新市のまちづくりを進めるにあたり、どのような施策に力点をおくべきだと思われますか。

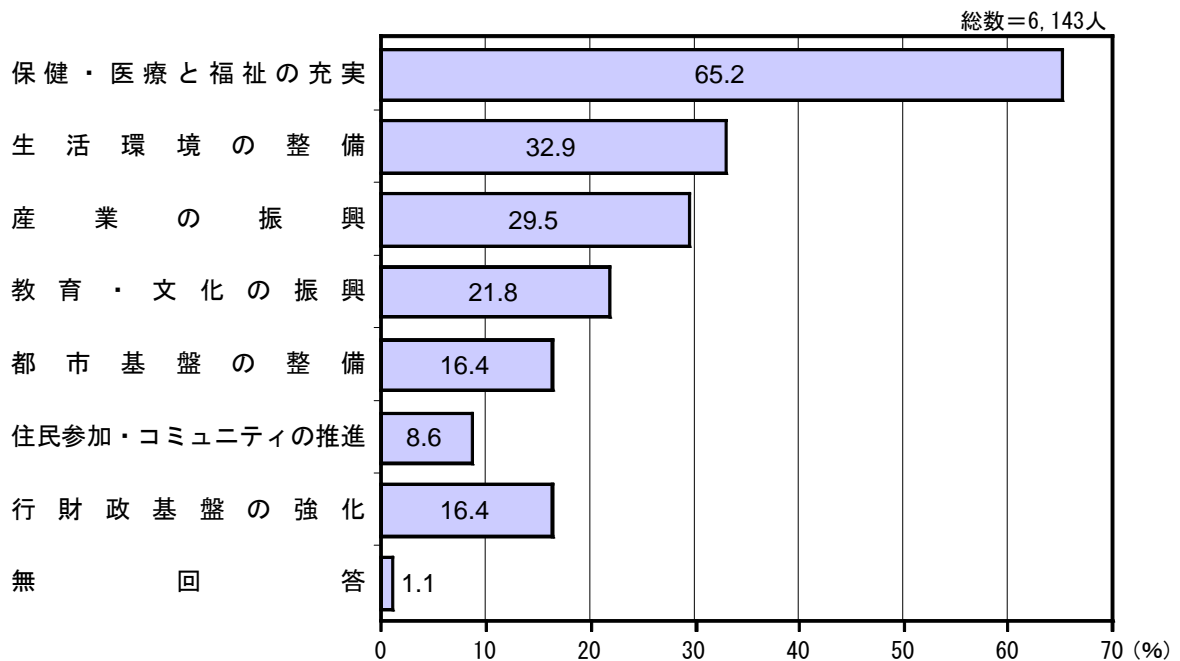
【2つまで選んでその番号に○印】

1. 保健・医療と福祉の充実(高齢者・障害者・児童福祉施策 など)
2. 生活環境の整備(上下水道、公園、住環境の整備 など)
3. 産業の振興(地場産業、新規産業の育成・誘致、商店街振興、祭り など)
4. 教育・文化の振興(小中学校教育・生涯学習施策、文化の振興 など)
5. 都市基盤の整備(道路など交通網の整備、区画整理・市街地再開発 など)
6. 住民参加・コミュニティの推進(行政への住民の参加、ボランティア など)
7. 行財政基盤の強化(行政合理化、企業経営手法の導入 など)

①全体集計

○「保健・医療と福祉の充実」が約65%と圧倒的に高く、次いで「生活環境の整備」が約33%、「産業の振興」が約30%と目立っています。

図表IV-2-1 新市のまちづくりに際して力点をおくべき施策分野



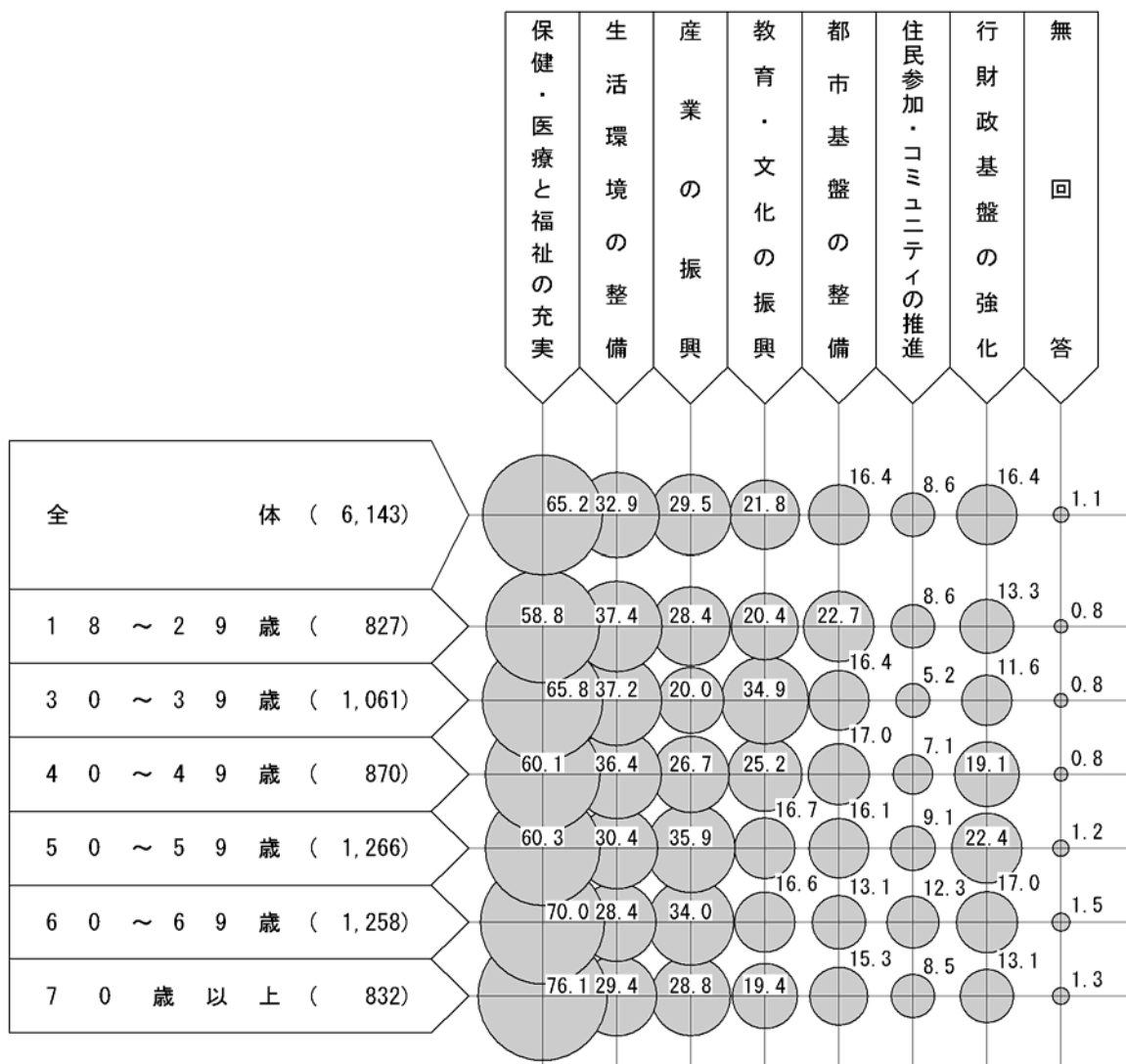
IV. 合併後のまちづくりについて

②クロス集計

ア) 年齢別

○高い年齢層で「保健・医療と福祉の充実」を支持する傾向が顕著です。若い年齢層から中間の年齢層では「生活環境の整備」や「教育・文化の振興」を支持する傾向があります。

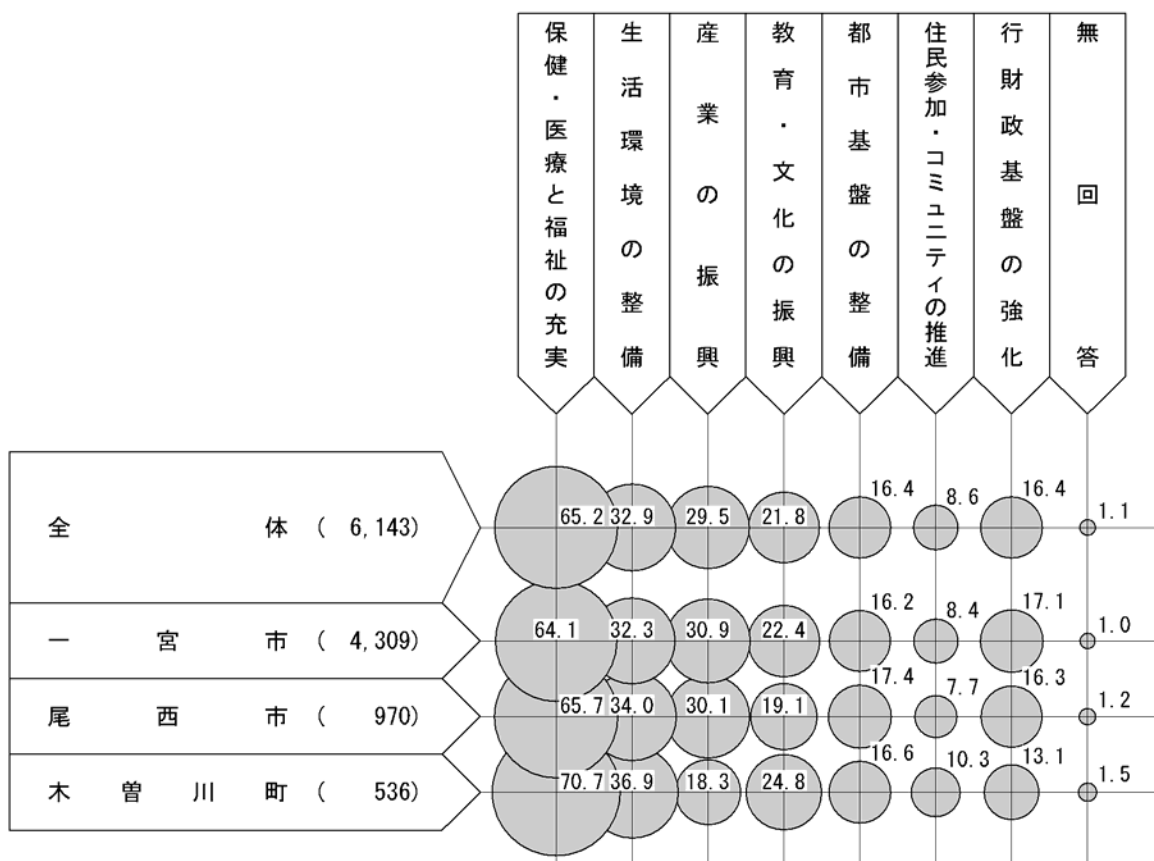
図表IV-2-2 新市のまちづくりに際して力点をおくべき施策分野（年齢別）



イ) 地域別

○全体の傾向としては、どの地域もおおむね同じですが、「木曾川町」では「保健・医療と福祉の充実」を支持する傾向が強く、「一宮市」と「尾西市」では「産業の振興」を支持する傾向があります。

図表IV-2-3 新市のまちづくりに際して力点をおくべき施策分野（地域別）

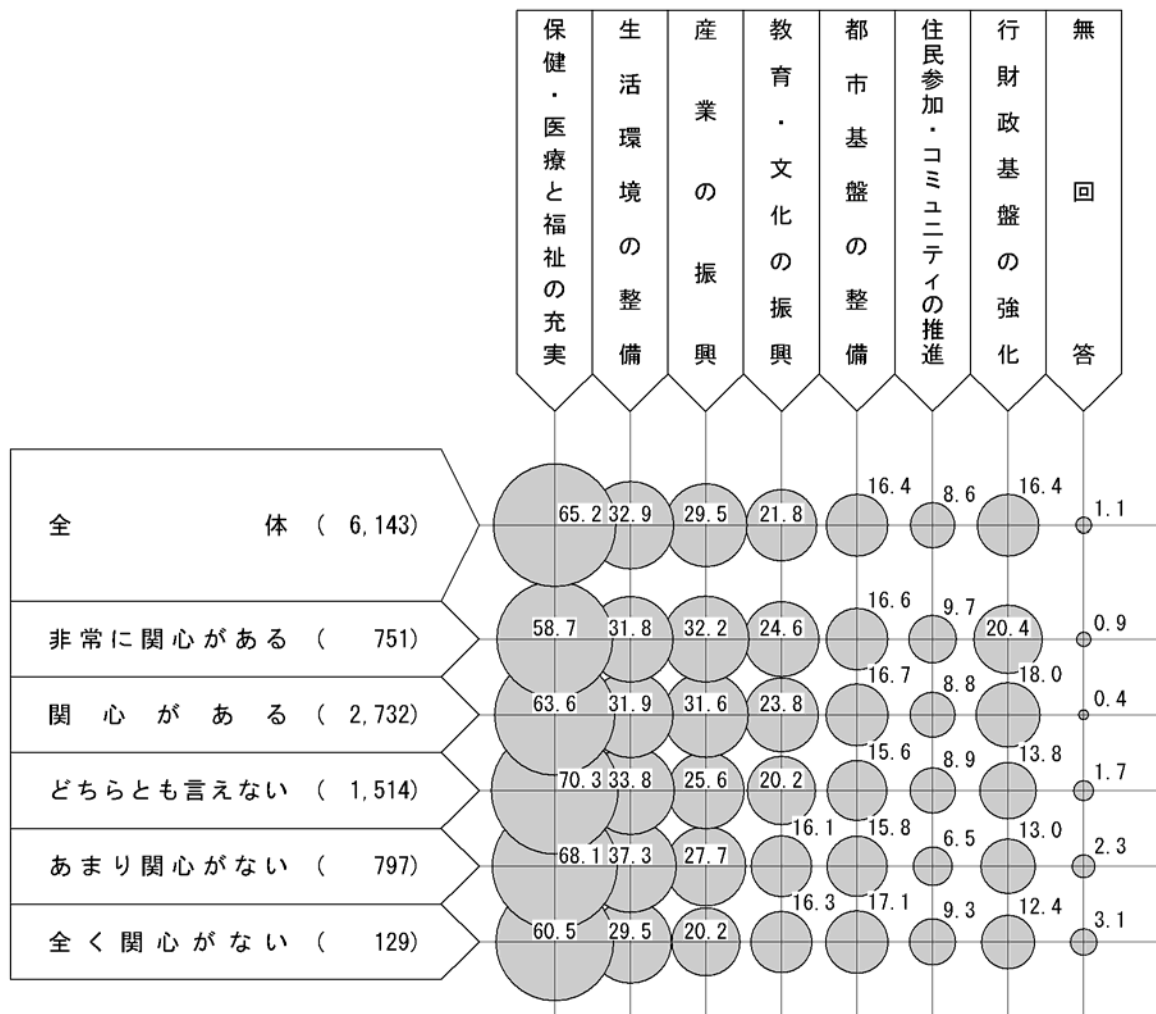


IV. 合併後のまちづくりについて

ウ) 合併についての関心度別

○合併に関心が高い回答者ほど「産業の振興」、「教育・文化の振興」、「行財政基盤の強化」に力点を置くべきという意見が強いことがわかります。

図表IV-2-4 新市のまちづくりに際して力点を置くべき施策分野
(合併についての関心度別)



(3) プロジェクト・施策で重要なもの

問9 現在、合併後のまちづくり計画の素案の中で、以下のプロジェクト・施策を盛り込むことが検討されています。以下の中で、**重要と思われるもの**を選んでください。

【3つまで選んでその番号に○印】

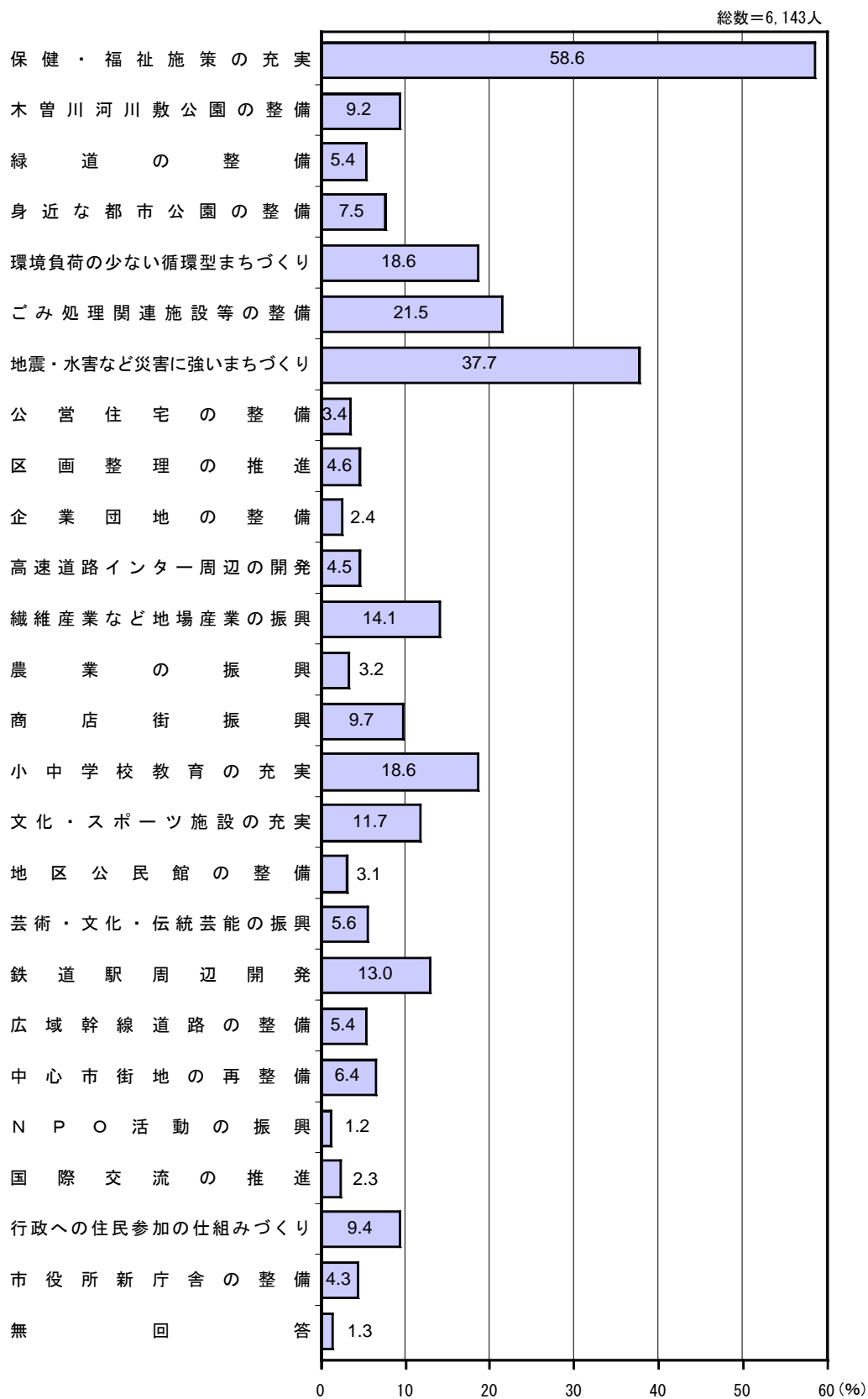
- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1. 保健・福祉施策の充実 | 2. 木曾川河川敷公園の整備 |
| 3. 緑道の整備 | 4. 身近な都市公園の整備 |
| 5. 環境負荷の少ない循環型まちづくり | 6. ごみ処理関連施設等の整備 |
| 7. 地震・水害など災害に強いまちづくり | 8. 公営住宅の整備 |
| 9. 区画整理の推進 | 10. 企業団地の整備 |
| 11. 高速道路インター周辺の開発 | 12. 繊維産業など地場産業の振興 |
| 13. 農業の振興 | 14. 商店街振興 |
| 15. 小中学校教育の充実 | 16. 文化・スポーツ施設の充実 |
| 17. 地区公民館の整備 | 18. 芸術・文化・伝統芸能の振興 |
| 19. 鉄道駅周辺開発 | 20. 広域幹線道路の整備 |
| 21. 中心市街地の再整備 | 22. NPO活動の振興 |
| 23. 国際交流の推進 | 24. 行政への住民参加の仕組みづくり |
| 25. 市役所新庁舎の整備 | |

①全体集計

- 「保健・福祉施策の充実」が6割近くと圧倒的に高い割合であり、次いで「地震・水害など災害に強いまちづくり」が約38%、次いで「ごみ処理関連施設等の整備」、「小中学校教育の充実」、「環境負荷の少ない循環型まちづくり」と続いており、暮らしにかかわる施策を支持する傾向が強いと言えます。

IV. 合併後のまちづくりについて

図表IV-3-1 プロジェクト・施策で重要なもの



②クロス集計結果

ア) 年齢別

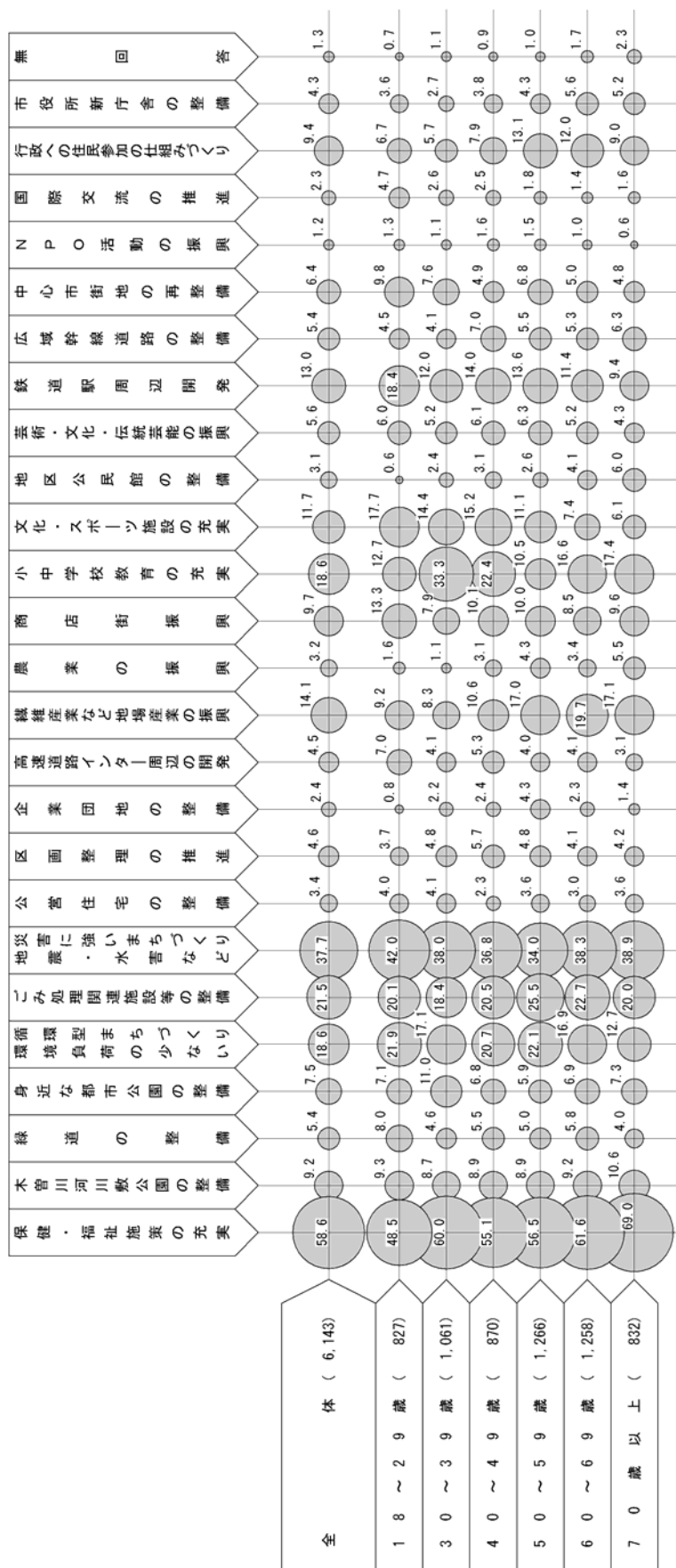
○全ての世代で「保健・福祉施策の充実」の割合がトップであり、特に高い年齢層においての支持が高い傾向にあります。「地震・水害など災害に強いまちづくり」も、全ての世代で2番目になっていますが、「18～29歳」では42%と「保健・福祉施策の充実」の約49%に迫る割合となっています。

○また、「小中学校教育の充実」については、『30～49歳』の子育て期の世代において高い支持を得ており、「繊維産業などの地場産業の振興」は『50歳以上』の世代が支持する傾向が強くなっています。

図表IV-3-2 プロジェクト・施策で重要なもの上位（年齢別）

	全体		18～29歳		30～39歳		40～49歳	
1	保健・福祉施策の充実	58.6	保健・福祉施策の充実	48.5	保健・福祉施策の充実	60.0	保健・福祉施策の充実	55.1
2	地震・水害など災害に強いまちづくり	37.7	地震・水害など災害に強いまちづくり	42.0	地震・水害など災害に強いまちづくり	38.0	地震・水害など災害に強いまちづくり	36.8
3	ごみ処理関連施設等の整備	21.5	環境負荷の少ない循環型まちづくり	21.9	小中学校教育の充実	33.3	小中学校教育の充実	22.4
4	小中学校教育の充実	18.6	ごみ処理関連施設等の整備	20.1	ごみ処理関連施設等の整備	18.4	環境負荷の少ない循環型まちづくり	20.7
5	環境負荷の少ない循環型まちづくり	18.6	鉄道駅周辺開発	18.4	環境負荷の少ない循環型まちづくり	17.1	ごみ処理関連施設等の整備	20.5
6	繊維産業など地場産業の振興	14.1	文化・スポーツ施設の充実	17.7	文化・スポーツ施設の充実	14.4	文化・スポーツ施設の充実	15.2
7	鉄道駅周辺開発	13.0	商店街振興	13.3	鉄道駅周辺開発	12.0	鉄道駅周辺開発	14.0
8	文化・スポーツ施設の充実	11.7	小中学校教育の充実	12.7	身近な都市公園の整備	11.0	繊維産業など地場産業の振興	10.6
	全体（再掲）		50～59歳		60～69歳		70歳以上	
1	保健・福祉施策の充実	58.6	保健・福祉施策の充実	56.5	保健・福祉施策の充実	61.6	保健・福祉施策の充実	69.0
2	地震・水害など災害に強いまちづくり	37.7	地震・水害など災害に強いまちづくり	34.0	地震・水害など災害に強いまちづくり	38.3	地震・水害など災害に強いまちづくり	38.9
3	ごみ処理関連施設等の整備	21.5	ごみ処理関連施設等の整備	25.5	ごみ処理関連施設等の整備	22.7	ごみ処理関連施設等の整備	20.0
4	小中学校教育の充実	18.6	環境負荷の少ない循環型まちづくり	22.1	繊維産業など地場産業の振興	19.7	小中学校教育の充実	17.4
5	環境負荷の少ない循環型まちづくり	18.6	繊維産業など地場産業の振興	17.0	環境負荷の少ない循環型まちづくり	16.9	繊維産業など地場産業の振興	17.1
6	繊維産業など地場産業の振興	14.1	鉄道駅周辺開発	13.6	小中学校教育の充実	16.6	環境負荷の少ない循環型まちづくり	12.7
7	鉄道駅周辺開発	13.0	行政への住民参加の仕組みづくり	13.1	行政への住民参加の仕組みづくり	12.0	木曾川河川敷公園の整備	10.6
8	文化・スポーツ施設の充実	11.7	文化・スポーツ施設の充実	11.1	鉄道駅周辺開発	11.4	商店街振興	9.6

図表IV-3-3 プロジェクト・施策で重要なもの（年齢別）

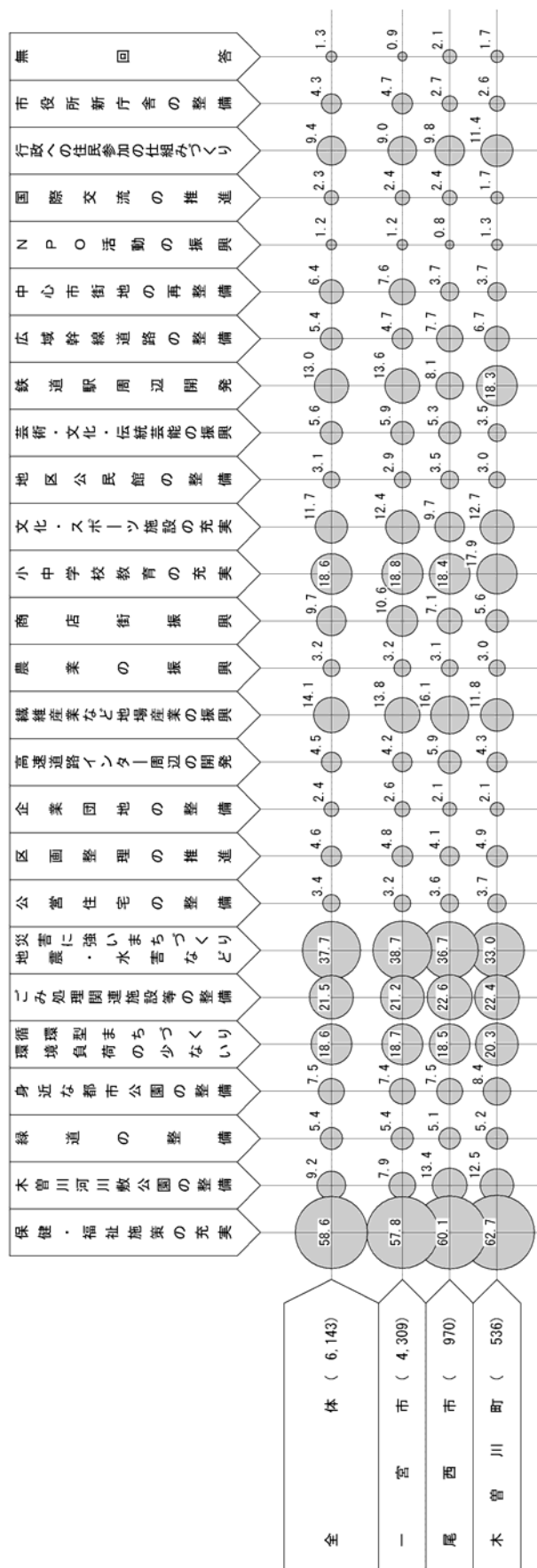


イ) 地域別

- いずれの市町においても「保健・福祉施策の充実」が約6割の支持を得ていますが、「木曾川町」、「尾西市」、「一宮市」の順で支持する割合が高くなっています。逆に「地震・水害など災害に強いまちづくり」については、「一宮市」、「尾西市」「木曾川町」の順で支持されています。
- ほかには「繊維産業などの地場産業の振興」は「尾西市」で高く、「商店街振興」では「一宮市」で高くなっています。「鉄道駅周辺開発」は「木曾川町」と「一宮市」で高いという結果となっており、地域特性を踏まえた施策が求められています。

IV. 合併後のまちづくりについて

図表IV-3-4 プロジェクト・施策で重要なもの（住まいの地域別）



V. 自由意見

問10 一宮市、尾西市、木曾川町の合併についてご意見・ご要望がありましたらご自由にお書きください。(記入欄はA-4 半分程度のスペース)

○自由意見は約2,016人から回答をいただき、延べ2,630件の意見をいただいています。

○意見の内容は、合併についての直接的なものや、各分野におけるまちづくりについての意見というように分類することができました。

総件数		2,630件
合併について		
① 合併賛成、合併への期待		218
② 合併への反対・不安や疑問		162
③ 合併に対する要望		515
各分野のまちづくりについて		
① 保健・医療と福祉の充実		239
② 生活環境の整備		321
③ 産業の振興		168
④ 教育・文化の振興		171
⑤ 都市基盤の整備		308
⑥ 住民・コミュニティの推進		39
⑦ 行政基盤の強化		354
その他		135

○それぞれの分野について、類似の意見が多いものと、主な内容について示します。

「◎」は多かった意見、そのうちで「○」は代表的な意見やユニークな意見です。

◇については、その他の主な意見を示しています。

〈合併について〉

① 合併賛成、合併への期待 218件

代表的な内容及び主な関連意見	意見数
合併に賛成。	26件
合併を進めるべきである・合併に期待する。	40件
合併後、より良いまちづくりができれば良いと思う。	
財政状況が厳しいなかでも将来を見据え頑張ってほしい。	31件
合併により住み良いまち・安心して生活できるまちになるように。	
住み良いまち一宮になるよう、いろいろな角度から検討して、ビジョンを持って着実に前進してほしい。	

V. 自由意見

代表的な内容及び主な関連意見		意見数
	合併前に比べ住み良い市になること、安心して老後が暮らせるまちになることを希望する。	
合併して良くなるように・良かったと言えるようにしてほしい。	合併によって一宮市民となった人々だれもが、良かったと思えることを願っている。	29 件
	合併直後の結果はどうあれ、5 年、10 年先の新市が良くなるよう祈っている。	
活気のあるまち・中心都市となること・発展することを期待する。	愛知県西部の中核都市としての発展を期待する。	31 件
	活気のある賑やかなまちに戻ってほしい。	
	この地域がますます発展し、活気ある新生一宮市になることを期待する。	
その他	行政の効率化のため、行政サービスの多少の低下はやむをえない。	61 件
	2 市 1 町、それぞれの良い所をいかしながら、お互いに協力していける新しいまちづくりに期待する。	
	合併して良い点、悪い点を整理して住民の力で一步一步良い市にしていきたい。	
	せっかく合併するのなら、それぞれの市町の問題点・反省点をいやす。	
	36 万都市となり夢も多いがマイナス面も大きくなる。市長の手腕に期待している	

②合併への反対・不安や疑問 162 件

代表的な内容及び主な関連意見		意見数
	合併に反対。	31 件
周辺部がとり残される・周辺部地域の声が届かない。	小回りのきく木曾川町から新市に変わることに、大きな不安を感じる。	13 件
	合併することによって中心地から外れ、いろいろなことが、後回しにされるのが、心配である。	
合併が必要か疑問・合併ありきの方針ではないか。	合併ありきの方針に反対。今のままで良いと考えている人も多い。	30 件
	何のメリットがあるかわからない。	
合併によるデメリットが多い・メリットが分からない。	合併による各市町のメリット、デメリットがわからず、現状のままで良いと思う人が多い。	15 件
行政サービスが低下するのではないかと・市民に負担が増えるのではないかと。	サービスの低下と不便さばかりで、あまり良いことがない。	8 件
その他	国の号令による平成の大合併であり、地方自治の精神から外れている。	65 件
	行政区域が広くなり、サービス低下及びサービスが受けにくくなる。	
	都市の将来像・施策について具体的なものがなく、関心が持てない。	
	細部の項目について論じ合わないと、将来大変なことになる。	

③合併に対する要望 515 件

【合併後のまちづくり全般】

代表的な内容及び主な関連意見		意見数
市民にとって良いまちづくりを進めてほしい。	規模の大小にこだわらず、市民にとって暮らしやすいまちづくりを。	22 件
	行政の規模が大きくなっても住民サービスの質を低下させないで、活力ある安心できるまちづくりをしてほしい。	
それぞれの地域の良さをいかしてほしい。	尾西市、木曽川町の現在持っている特色をそのまま残せる新しいまちづくりを望む。	11 件
	細かいところまで、3市町の良いところを政策に取り入れてほしい。	

【合併に向けての進め方】

代表的な内容及び主な関連意見		意見数
協議会や協議について。	一宮に住みたいと思うようなまちづくりの方向を協議会は示してほしい。	17 件
	あとから不協和音が出ないように、十分な協議をお願いしたい。	
対等の精神を大切に、市町の融和を図ってほしい。	合併により、それぞれの地域が公平に恩恵を受けたり、負担したりするように。	15 件
	多くの住民が気持ち良く賛同できるような配慮を。	

【新市の名称や住所表示について】

代表的な内容及び主な関連意見		意見数	
新市の名称について	「一宮市」で良い・「一宮市」と決まってよかった。	32 件	
	「一宮市」と決まって不安だ・残念だ。	14 件	
	新市の名前は新しくした方が良い。	人心を一新して新しいまちをつくるには新市名でスタートすべき。	18 件
	「尾西」、「木曽川」という名前がなくなるのは残念。	15 件	
	その他	新市名「一宮市」に尾西や木曽川の人が納得しているのか疑問。	17 件
		新市名は住民投票で決めてほしかった。	
住居表示について	住所表示を簡潔に。	26 件	
	大字とか字を廃止して、読みやすく、書きやすく。		
	その他	古くからの地名をできるだけ変えないでほしい。歴史的に意味があります。	13 件
		尾西、木曽川の名前を残したい。	

【合併に伴う合理化・効率化について】

代表的な内容及び主な関連意見		意見数
合併に伴い合理化を進めてほしい。	税金を無駄遣いしないようにしてほしい。	32 件
	財政、コストの削減を進めて、有効に税金を使ってほしい。	

V. 自由意見

代表的な内容及び主な関連意見		意見数
無駄な公共事業を行わないように。	箱物をつくって、将来にわたり、借金や税金が増えるのは反対である。	44 件
	無駄な工事が行われている反面、街灯や側溝などの整備は遅れている。	
	合併によって補助金などが増加しても、絶対に無駄な事業はやめてほしい。	
保険料、公共料金の負担は増えないようにしてほしい。	合併によって行政サービスの質が低下したり、住民への負担が増えることのないようにしてほしい。	105 件
	税金の負担が増えないようにしてほしい。	
	合併後は税金や公共料金、サービスなど今よりも良くなるようになってほしい。	

【その他】

代表的な内容及び主な関連意見		意見数
住民投票を行ってほしい。	一宮市、木曾川町が住民投票を行う予定すらないのはおかしい。	32 件
	住民投票では数のみではなく、少数意見にも十分耳を傾けてほしい。	
メリットとデメリットを十分に説明してほしい。	メリットばかりでなく、デメリットについてどのような事柄を想定し、それらが最小となるような施策を進める方針なのかを明確にしてほしい。	8 件
新市庁舎は一宮駅を活用するなど便利な場所・中心地にしてほしい。		10 件
その他、新庁舎について	駐車場も十分にとった新庁舎建設を。	29 件
	分庁方式を望む。	
	現在の施設を庁舎として有効に活用を。	
その他		55 件

〈各分野のまちづくりについて〉

①保健・医療と福祉の充実 239 件

代表的な内容及び主な関連意見		意見数
高齢者等の福祉について	福祉政策全般の充実を、高齢化社会への対策を。	55 件
	高齢化社会を迎えるため、福祉政策の充実や住みやすい地域づくりに努めてほしい。	
	少子高齢化が進行する現実の中、高齢者や障害者の医療・福祉の充実を期待する。	
	合併によるスケールメリットはいかしてほしいが、弱者を置き去りにしないよう。	
弱者が安心して住み続けることができるまちづくりを。	保健、福祉の充実で高齢者、障害者問わず、皆が住みやすいように。	9 件

代表的な内容及び主な関連意見		意見数	
高齢者等の福祉について	高齢者にとって住みやすい地域づくりを。 高齢者にやさしいまちづくりを目指してほしい。 お年寄り、特に要介護状態になった方が安心して生活することができる高齢者福祉政策を進めてほしい。	16 件	
	障害者福祉の充実を。 障害者に普通の生活と働く喜びを与えてほしい。 障害者が外に出て、まちに溶け込めるような活動を活発にしてほしい。 精神障害者の方のための地域生活支援センターをつくってほしい。	10 件	
	高齢者のための施設の充実を。 高齢化社会に適応した老人施設等、地域差のない平等な政策を実行してほしい。 高齢者・身近な人が集まって交流し、楽しめる公民館がほしい。 手に職をもつシルバー世代の人たちが働くことのできる場を。	18 件	
	医療施設の充実を。 市民病院の駐車場の整備と、医療設備の充実を。 小児・高齢者を中心に医療の 24 時間体制を充実させてほしい。	20 件	
	その他 病院・福祉など、障害者に優しい地域であれば、健常者にも優しい。 健康で元気な高齢の方に、芸術、文化などの指導役をやってもらい、地域の発展や高齢者の生きがいにつなげてほしい。	22 件	
	少子化対策について	乳幼児医療の充実を。 乳幼児医療費が就学前まで無料になれば、若い世代には魅力的であり、たくさんの方が居住する。 児童手当の増額、期間延長、乳幼児医療の延長等、少子化対策をしっかりやってほしい。	14 件
		保育の充実・子育て中の母親にやさしい施策を。 延長保育や病後児保育をしてくれる施設を早急につくってほしい。 今のままでは、二人目の出産をあきらめる人が減らない。 共働き家庭のため、保育園などの預かり時間、特に土曜日を延長してほしい。 病児保育など、ワーキングマザーに優しい施策を先駆けて行ってほしい。	19 件
		少子化対策の充実を。 子供・親が広く交流が持てる場や、育児相談サービスの質の向上・親身になった対応をお願いしたい。 少子化が叫ばれる世の中、女の方が安心して出産、子育てができる環境を。	25 件
		子育ての負担の軽減を。 少子化が進む今、第 3 子から保育料、給食費を無料にするなどの支援が必要。 児童手当の受給資格の枠を広げ、できれば義務教育中はずっと支給してほしい。	12 件

V. 自由意見

代表的な内容及び主な関連意見		意見数
少子化対策について	その他	8件
	若い母親の間で、子育て中は一宮が住みやすいと評判なので、これをPRすべき。	
	児童虐待のないまちづくり。	
	児童福祉施設の充実、整備をしてほしい。	
その他	11件	

②生活環境の整備 321件

代表的な内容及び主な関連意見		意見数
ごみ処理等について	ごみの収集体制を充実してほしい。	21件
	夏場でもゴミの回収が午後からであったり、資源ゴミの回収日が月に1回しかない。	
	ゴミの分別について、3市町の中で一番進んでいる分別方法に合わせていただき、分別の意識が後退しないようにしてほしい。	
	リサイクルの推進を。	18件
	分別しやすい環境づくり、リサイクル運動など全国に先駆けて行ってほしい。	
	資源ごみについて、高齢者にとって回収場所が遠かったり、前日の夜に出すことが禁止されており仕事の関係で朝出せなかったりする。	
その他	18件	
環境にやさしい生活ができるようなごみ処理方法や、まちづくりを考えてほしい。		
	道端のごみのポイ捨てが目立つので、定期的にまちの清掃を行ってほしい。	
防犯・防災について	地震対策、水害対策の充実を。	8件
	地震で家屋倒壊の恐れがある建物が数多くあり、補修のために助成する制度を導入してほしい。	
	防災訓練もっと市ぐるみ・市民ぐるみで行ってほしい。	
	安全・安心なまちづくりを。	15件
	若い人と老人、子供が安全、安心して生活できるまちにしてほしい。	
	警察力の強化を。	9件
	治安の向上・防災対策を。	24件
	人の心が温かく、犯罪が起きない安心して住んでいける場所であってほしい。	
	地域がもっと特色をもって交流し、豊かな暮らしが整うことにより、犯罪が少ないまちにしてほしい。	
	公園などにおける子どもの安全対策を。	8件
その他	12件	
散歩などをする人に腕章などをつけてもらいパトロールを兼ねてもらおうなどの運動を推進してほしい。		
	暗い場所が多すぎるので街灯を増やしてほしい。	

代表的な内容及び主な関連意見		意見数
生活環境について	木曾川をいかした環境の整備を。	10 件
	木曾川は水がきれいで風景も良いところが多いので、緑と水をテーマに何かつくってほしい。	
	緑豊かな公園を・魅力ある公園を。	32 件
	乳幼児や児童が安心して遊べる公園などの施設を増設してほしい。	
	中心部だけでなく、周辺地域の公園づくりや、安心して子供たちが遊べるきれいな公園づくりも協議してほしい。	
	緑豊かな公園や、自然循環型の森林を作り、水と緑のステータスを築き上げてほしい。	12 件
	自然や緑豊かなまちを。	
	人間には緑の癒しが必要であり、緑を増やすまちづくりをしてほしい。	22 件
	下水道整備の促進を。	
	市内全域にわたり下水道整備を早期に実現し、住み良い環境整備を望む。	
	新庁舎や箱物をつくる前に、一刻も早く下水道整備を。	28 件
	快適に生活することができるまちづくりを。	
女性が安心して子供を生み育てられる、災害や犯罪の心配がない住みやすいまちづくりを。		
老若男女を問わず、安心して住むことのできるまちづくり、魅力あるまちづくりを。	84 件	
その他		
老人や子供たちが安心して遊べる場所の整備など、より身近で住みやすいまちを。		
子供たちが成長したころの地球環境のために環境問題にも力を入れてもらいたい。		
暴走族の撲滅をしてほしい。		
ショッピングセンターの整備など、開発に伴う道路の安全対策を進めてほしい。		

③産業の振興 168 件

代表的な内容及び主な関連意見		意見数
繊維産業を再生してほしい。	30 件	
伝統ある繊維産業の再生とブランドを育てていくことができる企業を誘致してほしい。		
糸や布生地を研究開発し、付加価値の高い製品でグローバル市場において世界の一宮を目指してほしい。		
繊維のまちとして、「服を買うなら一宮」と言われるようになってほしい。		
繊維産業に替わる産業を振興してほしい。	22 件	
脱繊維産業を掲げ、バイオなど先行き明るい産業を誘致する。		
繊維産業にこだわらず、中核都市にふさわしい産業の育成が他の施策に優先すべき。		

V. 自由意見

代表的な内容及び主な関連意見		意見数
新規産業の育成や優れた立地条件の活用を。	地理的利点をいかして、新しい産業の育成や企業誘致を積極的に推進。	25 件
	工場跡地に新規産業を誘致して、地域の雇用の場を拡大してほしい。	
新たなまちづくりで活力を。	市街地の再開発と生活環境整備により、住宅街として成り立っていくべき。	16 件
	住み良いまちづくりをすれば、人も集まり自治体に落ちるお金も増えるはず。	
商店街の活性化を。	大須の様な魅力ある若者が集まる商店街づくりを。	24 件
	大型ショッピングセンターや娯楽施設を誘致し、商店街の再開発を考えてほしい。	
新たな賑わいの場づくりを。	人の集いやすいテーマパークなど買い物と娯楽の複合施設があったら良い。	8 件
雇用の場づくりを進める。	高齢者の活用。元気な人が自分でできる範囲で仕事などを。	17 件
	若者のフリーターをなくすため、雇用の場づくりを。	
その他	愛知県の万博や世界に発信できる国際都市を。みんな参加しながら活気あるまちづくりを。	26 件
	繊維産業はもちろん、工業等の振興、中小企業に飛躍のチャンスを与えてほしい。	

④教育・文化の振興 171 件

代表的な内容及び主な関連意見		意見数
スポーツ施設を充実してほしい。	温水プール、スポーツジムなどのスポーツ施設を充実してほしい。	7 件
図書館を充実してほしい。	総合的な大きい図書館がほしい。	23 件
	最新図書、学術的なレベルアップ、駐車場の拡充、公共機関の利便性などで図書館を充実させてほしい。	
映画館をつくってほしい。		7 件
次代を担う人づくりを。	思いやり、道徳心などを育む学校教育を考えてほしい。	13 件
	個性豊かな子供たちを育てることができるまちづくりに力を入れてほしい。	
学区の再編、学校の選択が自由にできるように。	学校教育は地域別にアンバランスであり、校区制を見直し、教育の充実を図る。	16 件
	小中学校の数を減らして、通学はスクールバスなどで対応し、多くの友達に囲まれた環境で子供たちに成長してもらいたい。	

代表的な内容及び主な関連意見		意見数
教育内容の充実。	一クラスあたりの生徒、児童の数を今より少なくして、先生の数を増やしてゆとりのある教育を行う。	38 件
	若い教員志望者を採用するなど教師の質を向上させる。	
	学校教育について、犬山市のように改革にチャレンジしてもらいたい。	
大学を誘致してほしい。	四年制大学の誘致を。	11 件
その他	お祭りやイベントの際に、地元出身のアーティストなどに発表の場を設けて若者文化の活性化を。	56 件
	高齢化社会の到来を控え、意欲ある高齢者に勉強の機会を与えてほしい。	
	ローカルFM局開設など、若者に明るさを。	
	子供の教育に充実を図りながら、NPO活動の振興と活性化の推進を。	
	家庭教育、地域のつながり、住民一人ひとりが新しいまちづくりに参加し、子供たちを皆で育てていく。	
	伝統、教育、芸能、文化、スポーツの充実、振興に力を入れてほしい。	

⑤都市基盤の整備 308 件

代表的な内容及び主な関連意見		意見数
交通（道路・公共交通など）の便の充実を。	周辺市との連携・交流を密接にするため交通網を整備し、市全体の発展を図る。	25 件
	交通網を始めとしたネットワークづくりを大切にし、便利にしてほしい。	
	高齢化が進んでいるので、隅々まで不便にならないよう配慮してほしい。	
公共交通の充実を。	高齢者や、車にも乗れない人たちの足を真剣に考え、公共交通機関、福祉バスを充実してほしい。	74 件
	バス路線の廃止や便の削減のため、車が使えない時に非常に不便。	
	高校へのアクセスが悪いので、バスの便を良くしてほしい。	
	地球の限りある資源を有効に利用するためにも、公共交通機関に力を入れてほしい。	
	自分達もいずれ高齢者となり、運転免許を返す時が来るので、公共交通の充実を。	
循環・巡回バスの充実を。	一宮市が実施している i-バスの範囲を市内全域に広げてほしい。	58 件
	バス路線が廃止されたので、i-バスがカバーしてくれれば助かる。周辺の交通の便にも目を向けてほしい。	
	お年寄りのためにもできる限り自家用車を使わなくても施設等を利用できるように、巡回バスを拡大してほしい。	

V. 自由意見

代表的な内容及び主な関連意見		意見数
	中心部を走行している i-バスを周辺部まで延伸し、自家用車が無くとも市民病院や市役所、一宮駅へ行くことができるようにしてほしい。	
一宮駅など駅ビルや周辺の整備。	一宮駅のビルの建て替えを議論してもらいたい。今のままでは一宮市の表玄関として、ふさわしくない。 一宮市の玄関である一宮駅の早期改修。 J R 一宮駅から東の市街地とその周辺の住宅地域など、景観を整備してほしい。 J R 木曾川駅周辺、主に道路整備を急いでほしい。 一宮駅舎を少しでも早く改装してほしい。3 市町のバス路線や各駅周辺の整備をしてほしい。	68 件
地域の道路網の整備推進。	一宮・尾西・木曾川の東西の道はつながりが悪い。 一宮北部は道路の整備と、路上駐車取締りを厳重にしてもらいたい。	20 件
人にやさしい道づくりや道路の安全対策を。	車椅子の方が、気軽に出かけられるように歩道の段差をなくしてほしい。 今ある道路を歩きやすくしてもらいたい。車社会ではなく、歩いて一宮の素晴らしさを感じたい。	11 件
都市開発や区画整理の推進。	一宮駅周辺地域の開発整備を。 区画整理事業を推進してほしい。	23 件
その他	東海北陸道や、交通量の増大している地区などの道路を早く完成させてほしい。 一宮駅周辺、真清田神社、まち並みを美しく便利にする。 中心部のみではなく、周辺地域の開発を希望します。 都市機能を充実させることが、将来の地域発展の基礎をつくる。	29 件

⑥住民・コミュニティの推進 39 件

代表的な内容及び主な関連意見		意見数
住民の声を大切にしてほしい。	市民の声が、直接議員に届けることができるような仕組みがほしい。市民一人ひとりの声を大切に扱ってほしい。 合併すると市民の声が直接市長に届きにくくなるので、E-mail や手紙、F A X、電話などで直接市長に市民の意見が届くようにしてほしい。	10 件
市民によるまちづくり、市民参加の仕組みづくり。	自己責任を持つ、自立した市民づくりで、小さい行政と豊かなコミュニティの一宮市民文化を。 魅力あるまちづくりを目指して、地域内が連携したまちづくりや、住民のための住民によるまちづくりが必要。 行政への住民参加の仕組みづくりを。	14 件

代表的な内容及び主な関連意見		意見数
その他	まちの美化や防犯などのためのボランティアを立ち上げる。	15 件
	高齢者が特技などをいかして、生きがいとしてボランティアなどで活躍してほしい。	
	新しい街づくりの芽のために自立した住民意識を育むコンセプトが必要。	
	地域コミュニティとの協力、他の地域や外国との交流を推進してほしい。	

⑦行政基盤の強化 354 件

代表的な内容及び主な関連意見		意見数
十分に事業や予算の計画を立ててほしい。	費用対効果の考え方を取り入れることは、公共においても必要。	12 件
	予算ありきの考え方を捨て、民間企業並みの危機意識を持って市の運営にあたってもらいたい。最小限の出費で最大限の効果を。	
窓口業務の改善。	一宮市役所まで行かなくても今の役場、出張所で手続きができるよう便利に。	14 件
	特に教育と保健・福祉の垣根を取り、総合的な行政サービスを。	
効率的で計画的な財政運営を。	税金の無駄遣いはやめて、市民が納得できるような行政を。	36 件
	安易な起債は控え、事業計画を考え直すことも必要。	
	文化都市、商業都市、観光都市等の方向を定めて、行財政改革をしてほしい。	
	合理化すべき所とすべきでない所は、住民利益の観点から取捨選択してほしい。	
職員、議員の資質の向上。	合併後、民間企業のように感じ良く懇切丁寧な対応を望む。	27 件
	市職員の質の向上を望みます。自分の部署の勉強をもっとしてほしい。	
	議員は自分たちが住民に選出されていることを忘れないで。	
開かれた行財政運営を。	今までの大規模事業についての検証や収支の実態について不満である。	14 件
	市債の公開。ガラス張りの政治をしてほしい。	
	民間による第三者の監視機関を考えてほしい。	
人件費を削減してほしい。	議員数、市職員を削減してほしい。	68 件
	民間企業並みに人件費の削減を。	
議員数の削減をしてほしい。	議員定数は特例を使わずにすぐに削減してほしい。	48 件
議員報酬の削減・見直しを。	議員報酬を高い一宮市に合わせるの反対。	30 件

V. 自由意見

代表的な内容及び主な関連意見		意見数
職員数の削減を。	職員削減などの合理化による歳出の削減を。	34 件
	職員の数が多いことと給与の見直しを。	
その他	一般企業同様、役所においても徹底的に行政改革を実行し、税金の無駄遣い、支出削減に努めることを目標にしてほしい。	71 件
	財政の透明化を図り、地域住民に本当に必要なものと無駄なものを見極める。	
	次世代のために良き環境を残し、国際的にはばたける世代を育成するために財源を幅広く求める。	

〈その他〉 135 件

代表的な内容及び主な関連意見		意見数
新市のイメージアップを図ってほしい。	日本の一宮市、世界の一宮市となれるようなプロジェクトについて、考えを広く取り入れて計画してほしい。	17 件
	何か一つ、日本一を誇れるものを目指していただきたい。	
地域全体の発展を目指してほしい。	中心部だけ発展するのではなく、広い範囲で発展してほしい。	25 件
	今後も各地域の風土をいかし、活気あるまちづくりを。	
このアンケート調査について。	アンケートや同封資料は参考になった。	28 件
	アンケートは合併を前提としたものであり、意味がない。	
その他		65 件

一宮市・尾西市・木曽川町合併協議会事務局

〒491-8501 一宮市本町2丁目5番6号

(一宮市役所西分庁舎2階)

TEL・FAX：0586(73)1031

ホームページ：http://www.ibk-gappei.jp/

E-mail：info@ibk-gappei.jp